



立命館大学
父母教育後援会だより

INDEX

巻頭特集

春のオープン カレッジ …… 3

都道府県父母教育懇談会 …… 8

アカデミック講演会 …… 11

キャンパスライフ1日密着 …… 12

親の心配、子どものホンネ。 …… 13

古本募金による復興支援への
取り組み …… 14

100円朝食レシピコンテスト …… 16

キャンパスメンバーズ …… 17

座談会

～就職活動時期を迎えた
わが子とのかかわり方～ …… 18

ゼミナール訪問 …… 20

部活動&サークルウォッチング
…… 24

学生イベント&スポーツ …… 25

大学施設紹介 …… 26

2013年度受賞者一覧 …… 28

総会・春の委員懇談会 …… 34

秋のオープンカレッジ告知 …… 35



【写真】

- 1. 5. キャンパス風景 (BKC)
- 2. 経営学部の授業風景
- 3. 入学式 (衣笠)
- 4. 6. 9. キャンパス風景 (衣笠)
- 7. 新歓祭典 (BKC)
- 8. 政策科学部の授業風景

キャンパスで 全国で

懇談会を開催しました!!

衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスでの「春のオープンカレッジ」を中心に、全国で開催される懇談会を今年リニューアル。関西2府3県（京都、滋賀、大阪、兵庫、奈良）の都道府県父母教育懇談会、秋に行われていた学部別懇談会が春のオープンカレッジに組み込まれ、より充実したプログラムとなりました。各キャンパス、そして全国で開催された懇談会の様子をご紹介します！

懇談会
inキャンパス
6/14(土)

春のオープンカレッジ

6月14日（土）、晴天に恵まれた衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスで開催された「春のオープンカレッジ」には、全国から1,580組2,351名の父母が参加しました。今年は午前の部で就職や進学、留学、学生生活などをテーマとした講演会・説明会、午後の部で学部別懇談会を開催。教職員が大学のサポート体制や学部での学びについて説明しました。ほかにも学生が大学を案内するキャンパスツアーが企画され、学生の大学生活を知る絶好の機会となりました。



衣笠・BKCタイムテーブル

	9:00	受付
午前の部	10:00	キャリア講演会
	}	海外留学説明会
	11:20	大学院進学説明会
		キャンパスツアー
午後の部		学生生活講演会
	11:40	スキルアップ説明会
	}	教職課程説明会
	13:00	就職相談会
		キャンパスツアー
	14:00	学部別懇談会
	}	キャンパスツアー
	16:30	キャンパスツアー

学生生活、就職、大学院進学、留学など父母の方の関心はどの会場も父母の方であふれ、熱心に聞き入り質問を投げ深めたりするきっかけともなったのではないのでしょうか。

学生生活講演会

社会とつながって生きる力を育む

文学部・応用人間科学研究科の春日井敏之教授より「大学生の親になろう—思春期・青年期の自己形成と親の役割—」をテーマに講演がおこなわれ、大学生の親として「どれだけ上手に子どもと距離をとり、他者とつないでいくか」という課題について提言されました。大学選択、大学における学び、就職活動などを進めていくなかで「第一希望がすべて叶う人生なんてない。それよりも第一希望が叶わないなか、失敗したとき、挫折したときにどのように周りが援助できるかが大切」と話され、「努力は結果においてしばしば人を裏切る。しかしその目標に向かって培った力は、その人の人生を支える力になる」とエールを送られました。



次にご自身の経験を交えたユニークな語り口で、「第二の誕生」といわれる思春期・青年期における「生きる力」について語られました。比較・競争を避けては生きられない現代社会において、「孤立して生きる力」ではなく「つながって生きる力」が重要であり、父母の方々においては「どのように社会や他者とつながり、生きていくか」という課題に向か

う子どもたちを支援すること」が大事な役割であることを話されました。また第二の誕生の3つの課題として「働くこと」「愛すること」「社会参加すること」を挙げられ、さまざまなケースとともに語られるわかりやすい解説に、父母の皆さんもうなずかれていました。最後に、大学生の親として子どもが自分の人生の主人公になろうとしていることを応援すること、子どもを（よかれと思ってでも）支配・コントロールするのではなく、素直に成長を喜びあいながら、距離をとって見守り、子どもの相談に乗って一緒に考えることが大切であることを語っていただきました。



う子どもたちを支援すること」が大事な役割であることを話されました。また第二の誕生の3つの課題として「働くこと」「愛すること」「社会参加すること」を挙げられ、さまざまなケースとともに語られるわかりやすい解説に、父母の皆さんもうなずかれていました。

最後に、大学生の親として子どもが自分の人生の主人公になろうとしていることを応援すること、子どもを（よかれと思ってでも）支配・コントロールするのではなく、素直に成長を喜びあいながら、距離をとって見守り、子どもの相談に乗って一緒に考えることが大切であることを語っていただきました。

キャリア講演会

“キャリア”は終わることのない学び

はじめにキャリアセンターの松原次長から、2013年度の就職状況の概略についてのお話があったあと、今後は企業の採用広報の開始時期が遅くなり、現在の3回生から就職活動の期間が短くなることについて説明されました。そして学生においては、4年間を通じて何ごとにも主体的にチャレンジしていくことが大切であり、父母の皆さんにはお子さんが必要とする支援をしてほしい、と結ばれました。



次に、立命館大学法学部のOGであるGEキャピタル人事部マネージャーの神原氏が、GEキャピタルの事業内容から、実施されているリーダーシップ開発についての考え方やキャリアアップについてのご提言など、さまざまに語られました。

まず、100年以上の歴史を持ち、多岐に渡る事業を展開するGEグループでは、グローバル人材を育成する哲学として国や宗教、人種、性別、年齢を問わず、グロースバリュー（GEグループ全体に共通する価値観・行動規範）と業績のみを評価基準としていること、その基準を根拠としてリーダーシップ開発が進められていることについて説明がありました。「自分の運命は自分で切り開く」というGEグループの人材育成に関する基本的な考え方を語られたあと、4回生のときに交換留学に行き、その後社会人になってからアメリカの大学院に留学されたご自身の経験を踏まえ、キャリアを形づくるに当たって学生時代から取り組むべきことについて語られました。最後に企業が求める人物像として、「質問する力、そして自分で考え、決断し、解決する力を持っていること」を挙げ、「社会人として第一歩を踏み出す時に、長期的なキャリアを考えよう、まず何をしようかと考えることが大切」とアドバイスされました。



さまざま。今年も多様なテーマのプログラムが用意されました。そのなかから、4つの講演会・説明会をピックアップ。かける様子が見られました。学びの環境を知ることで、子どもたちの将来を考えたり、親子のコミュニケーションを

海外留学説明会

グローバル人材に必要な国際感覚を修得

「日本には起り得ない、困難な状況を経験できるところが海外留学の醍醐味」と、衣笠国際教育センターの羽谷センター長が語られ、今、社会でどのような国際感覚が必要とされているか、留学することの意義を説明されました。今後は就職活動の開始時期が遅くなり、今まで不利とされていた海外留学を体験しても就職活動に間に合い、留学のチャンスが広がるようになりました。そこで、「理論的、戦略的、概念的に考え、英語で議論ができる」、「多国籍チームの中でメンバーの強みを引き出して高い成果を上げることができる」、「ミッションに情熱を持って取り組める」といった、企業が求める人物像に近づく留学のメリットについて語られました。



続いて、衣笠国際課の河内課長が3つのレベルの留学制度について紹介。語学力の増進と異文化体験が主な目的となる海外留学の入門編的なイニシエーション型と、語学力を高めながら専門分野の講義を受講できるモチベーション向上型、さらに、一定の語学力を満たした学生が、自分の専攻分野を外国語で学修するこ



とを目的とした正規の学部留学、あるいはそれに匹敵するプログラムであるアドバンス型について、それぞれの特徴とともに、費用や奨学金制度を踏まえてわかりやすく説明されました。

その後、アメリカのワシントン大学に留学した政策科学部3回生の佐々木さんが「両親が後押ししてくれたから留学できた」、同じくアメリカのシモンズカレッジおよびウエスタンミシガン大学に留学した文学部4回生の赤石さんが「留学するなら何を学びたいのか、目的意識を持つことが大切」と、それぞれの体験談を父母の皆さんの前で熱く語りました。

大学院進学説明会（理系）

未来のキャリアを目標においた進学を

「現在、日本の大学院進学率は約50%。国を挙げての大学院拡充政策が進められており、大学院進学後に就職する人が大幅に増えています」と市木教学部副部長（理工学部教授）が大学院進学の概略を説明されました。市木副部長は高度専門職業人や研究者を養成するという大学院の教学目標を述べられ、日本国内のみならず、国際競争のなかで自らのキャリアプランを打ち立て、多様な時代を制していくために、大学院進学という選択



が今後のキャリアにおいて有用であることを語られました。

また、学部と大学院それぞれの就職状況を比較し、例えば企画、研究、製品開発職や、キャリア公務員を目指すにあたり、大学院を修了していることが有利に働くというデータについて説明されました。

次に、入学手続きの注意点や充実した奨学金制度の説明など、大学院進学



に関する具体的なお話があったあと、現役大学院生3名によるパネルディスカッションがおこなわれました。生命科学研究所博士課程前期課程4回生の藤井さんは「専門性を生かせる場所に就職したいと大学院進学を決めました。学部時代は机上での勉強が主だったのですが、大学院では実践的な研究を進めることができている。立命館の大学院への進学を決めたのは、TOEIC講座や大学院生を対象とする留学制度があり、グローバルに活躍できる人材を目指すための環境が整っていると感じたからです」と話しました。

ほかの大学院生からも、海外での学会発表・参加の機会もあり、グローバルな視野を身につけ人脈を広げることができる、奨学金などの経済的支援が充実しており、研究に集中できる環境があるなど、大学院進学の利点についてそれぞれ語りました。

学部別懇談会

午後の部では学部別懇談会がおこなわれ、教職員から学部での学びについて説明されました。衣笠とBKCの13学部ごとに催された懇談会のなかから、理工学部懇談会の様子をお伝えします。



学生が主体的に学ぶ力を養う

懇談会のはじめに笠原学部長が「大学の施設や環境の整備に加え、教育システムの個別対応や国際的な視点・英語力を養う国際教育、学部と大学院間での教育の体系化、単位取得漏れの防止などに取り組んでいます」と述べ、あいさつを兼ねて理工学部の現状と目標を説明されました。

また教学担当の藤田副学部長は「学生には理系分野の確かな学力、他者とのコミュニケーション能力、国際化・情報化への適応能力を身につけてほしい」と人材育成目標を具体的に解説。学部の特徴的な教育システムとして、学生が自ら課題への解決策を考え応用力と実践力を養う「デザイン型科目」や、学生が相互に教え合い主体的な学習を促す「学びのスペース」などを紹介されました。

その後大学院担当の宮野副学部長は、知識を享受する学部での学びに対して大学院では学生主体の研究が学びの中心となると説明。さらに大学院進学による就職活動の優位性を語られました。次いで在学生から学生生活の体験談やアドバイスがされたあと、最後のパネルディスカッションでは父母の皆さまから活発な発言がなされました。



学生voice1

理工学研究科 博士課程前期課程 2 回生
人見達郎さん

大学のサポートをフル活用、研究に打ち込んだ毎日

大学院での学習も2年目に入り、来年からは大手家電メーカーに技術職として就職が決まっています。大学へは高校から内部進学したため学力に不安がりましたが、リメディアル科目の受講により基礎学力を底上げすることができました。学習活動では強みである知的好奇心や積極性を生かし、興味ある分野での研究に没頭しました。研究に忙しい毎日でしたが、OB訪問や学校推薦という制度を活用して自分の専門性を生かした企業に就職することができました。みなさんも大学の充実した支援制度を生かして、学習や就職活動に取り組んでほしいと思います。



学生voice2

理工学部 4 回生
武部玄高さん

充実した学習環境で、自分の研究を深めていきたい

大学では天文研究会に所属し、地域の交流会や学園祭で天文に関する講演会を開いたり、天体観測を企画したりするなどサークル活動に意欲的に取り組んできました。また、学習の面でも天体物理学の分野に日々取り組んでいます。今年4月に完成した「トリシア」という新棟の屋上に口径60cmの天体望遠鏡が設置されたため、卒業論文はこの設備を生かしたテーマで進めようと思っています。進路に関しては、就職活動を通して研究開発職を目指すための課題を発見したので、大学院に進学して、恵まれた環境でじっくり研究がしたいと考えるようになりました。



会場の雰囲気

懇談会には多くの方が参加され、話を真剣に聞き入る姿が印象的でした。パネルディスカッションでは意欲的に質問回答がおこなわれながら、ときに笑いがおこる場面もあり、全体的に和やかな雰囲気の懇談会となりました。

皆さま積極的に質問をされていました



理工学部施設“トリシア”がオープン

今年4月に完成したトリシアは、いわば建物まるごとが実験棟。「優れた実践教材としての建築計画」をコンセプトに据え、建築素材、構造、設備に至るまで建物全体を建築・環境に関する実験教材にしようという試みのもと設計されました。例えば、建物各所には企業の協力のもと最新の省エネルギー、環境負荷軽減の技術・設備・素材などが導入され、現在は教員や学生が被験者としてその効果を検証しています。

また学生の意見を取り入れて作ったイバショテラスやラボカフェなど、学生の居場所づくりに努めたデザインにも注目が集まっています。



Parents Voices on 6.14

衣笠

天気にも恵まれ多くの
父母がキャンパスへ



上/人気の
キャンパスツアー
左/学食で
ランチ

学生が主体となった組織立てが
すばらしい！就職相談会では「学生
を最後までサポートする」と
いう熱意に安心しました。



角田さん ご夫妻
(産業社会学部 4 回生)

ご参加いただいた父母の声

- ◆子どもが留学するにあたり単位や就職のことを心配していましたが、海外留学説明会で詳しい話が聞けて安心することができました。
- ◆留学のプログラムについてだけでなく、留学の意義についても知ることができました。
- ◆キャリア講演会で聞いた人材育成についての話を、子どもに話したいと思います。
- ◆学生生活講演会での教授の話がとてもおもしろく、ためになるものでした。
- ◆学生生活講演会では、子どもと親の関わり方を改めて認識することができました。
- ◆大学院がどのように将来につながっていくのかわからず不安だらけでしたが、学生の体験談や大学のさまざまなサポートについて聞くことができ安心しました。
- ◆教職課程の説明がとてもわかりやすく、今後の参考になりました。
- ◆就職相談会では個々の話がしやすいかったです。質問にも丁寧に答えてくださいました。
- ◆またこのような機会があればぜひ参加したいと思います。

講義内容から進路まで学部概况を知ることができました。活躍されている OB・OG の生の声が聞けたのも良かったですね。



水野さん ご夫妻
(法学部 1 回生)

子どもが留学を考えているようなので、今回のプログラムで体験談もふまえた説明が聞けてよかったです。



中谷さん ご夫妻
(経済学部 1 回生)



上/学生がキャンパスを案内します！
右/食堂のメニューは大好評



開始時間と同時に受付へ

BKC



資格取得や語学力向上に向けて、レベルの高い講座が開かれているのですね。本人が希望するならばぜひ受講してほしいです。



小畑さん ご夫妻
(経営学部 1 回生)

ご参加いただいた父母の声

- ◆子どもの留学前に親としてできることや心構えのお話を聞くことができよかったです。
- ◆キャリア講演会では実際の企業経営者の方から理系(技術開発)における物事の考え方を、事例を交えてわかりやすく説明していただき、理解が深まりました。
- ◆経営者が望む学生の資質をお話いただき、親がアドバイスすべきことがわかりました。
- ◆学生生活講演会の話は、自分の家庭を見直すいいきっかけになりました。
- ◆大学院に行く目的や過ごし方を、学生から直接話が聞けたので大変参考になりました。
- ◆就職説明会では子どもから聞いた話とは違った視点で話を聞くことができ、大満足です。心強い先生方の支援があることが親としては何よりの安心材料でした。
- ◆就職相談会では参加されたほかの父母の方の質問や、それに対する的確な回答やアドバイスも大変参考になりました。
- ◆キャンパスツアーでは案内の学生の学生生活に関する話がとても参考になりました。

5/31^土
7/13^日

都道府県父母教育懇談会

全国の父母の皆さまに大学での学びを知ってもらうため、今年も北海道から沖縄まで各地域に教職員や学生が赴き、懇談会を開催しました。大学から遠く離れている父母の皆さまにとって、日頃の学生生活や進路・就職などの心配を解消するいい機会となったのではないのでしょうか。

父母同士が情報や悩みを共有する小グループでの懇談の場が設けられ、ますます内容が濃くなった2014年度の都道府県父母教育懇談会の様子をお伝えします。

今年は43会場で実施、
全国で約2,500名が参加されました！

タイムテーブル

12:30 受付

全体会

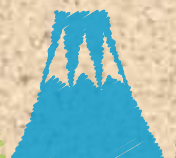
13:00 ・大学代表あいさつ
 ・大学紹介 VTR 上映

14:30 ・総会報告
 ・学生生活とキャリアサポート

14:40

グループ別懇談会

16:30



6/8日 愛知会場 report

出身学生が多い愛知県では、文社系と理系の2回に分けて懇談会を実施。
 文社系の学部の父母を対象とした懇談会は6月8日(日)、名古屋国際会議場で開催されました。
 全体会での各説明と学生の体験談、そして愛知会場の雰囲気と参加された父母の声をご紹介します。



全体会 全体会は松浦直美愛知県委員が司会を務め、國廣敏文常務理事が大学を代表し、日頃の父母の皆さまの多大な支援に対して感謝の意を述べられました。なかでも父母教育後援会が実施する表彰制度について、昨年度は700名以上の学生が表彰されて学生への大きな励みとなったことを報告されました。また2015年に開設する大阪のいばらきキャンパスについてふれ、衣笠やびわこ・くさつキャンパスとともに教育の質の向上を図っていく指針を述べられました。

次に、5月17日(土)に開催された2014年度父母教育後援会総会について、奥山茂愛知県父母委員が報告されました。総会では2013年度の事業決算報告とともに、懇談会事業、学生教育支援事業、広報事業の主に3つを柱とする、2014年度の事業計画と予算が承認されたことを伝えられました。

続いて、大島英穂国際部部長が学生生活や就職・進路について説明。最初に4年間の学習の主な流れや成績通知表の見方を、サンプル表などの資料を基に解説されました。また、大学が設けている奨学金制度や留学制度についても説明し、大学がさまざまな学生をサポートする体制を整えていることを伝えられました。更に2013年度の就職状況について述べ、「企業は学生を採用するにあたり、職務遂行能力の高さだけではなく仕事を通



じて実現したいビジョンや価値観が明確になっているかを重視しています。学生生活のさまざまな体験を経て社会観を確立してほしい」と語られました。最後に、愛知県を含む中部地方出身の学生のおよそ半分がUターン就職していることにふれ、全国型総合大学である立命館では各地方へのUターン就職の支援にも力を入れていることを述べられました。

学生体験談 国際関係学部 4回生 中島 彩さん

大学の留学プログラムを利用して10ヶ月の交換留学を体験

大学入学前から留学に興味がありましたが、進級や就職活動への影響を考えると不安の方が大きかったです。しかし大学の募集説明会に参加し、学内の留学プログラムを利用すれば奨学金が支給されることや留学先で取得した単位が認定されることを知り、留学を決意することができました。数あるプログラムのなかで私は交換留学制度に応募し、2回生の夏休みから3回生の4月まで10ヶ月間、フランスの大学に留学しました。現地の大学の講義はついていくのが大変でしたが、学内の語学学校でフランス語を鍛えることができたので、徐々に理解できるようになりました。留学先での授業を経て集中力がついたと感じていますし、フランス以外の国や日本の文化についても、もっと学ばなければという意識を持てるようになりました。



会場の雰囲気

名古屋国際会議場の正面入口



大規模な国際会議やイベントがおこなわれる名古屋国際会議場で開催。愛知県内から多くの父母が集いました。



グループ別懇談会 金鯱のレプリカ



参加者の声



落合さん ご夫妻 (経済学部2回生)

インターンシップや留学など、息子が興味を持っていることについての話が聞けました。グループ別懇談会では他の父母の方が同じ悩みを持っていることを知り、安心することができました。

上映されたVTRや先生方のお話から、大学の方針などを知ることができてよかったです。娘はボランティアやサークル活動などで毎日忙しいようですが、充実した4年間にしてほしいです。



大竹さん ご夫妻 (産業社会学部1回生)

7/6日 石川会場 report

7月6日(日)には石川県のANAクラウンプラザホテル金沢で、都道府県父母教育懇談会を開催。先立って開催されたアカデミック講演会とともに多くの父母が参加されました。グループ別懇談会と学生の体験談、そして石川会場の雰囲気と参加された父母の声をご紹介します。



分科会

全体会のあとは、3つのグループに分かれてグループ別懇談会がおこなわれました。どの会場でも教職員へ就職活動や留学、大学院進学などに関する率直な疑問や、大学生活への心配ごとなどを積極的に投げかける父母の姿が見られました。また体験談を語った学生2名が各会場を回り、父母の質問に直接答えました。

そのあと更に4~5人の小人数グループに分かれて父母同士で情報や悩みを共有する懇談の場が設けられ、今年初めてのこの試みは大好評。遠く離れて暮らす子どもたちへ抱く思いに共感される父母の様子が見受けられました。



学生体験談

経済学部 4回生
前田 都希さん

親と話し合いUターン就職を決意

就職活動を始めた当初は、立命館大学で開催される学内就職説明会に参加して業界・企業の研究をおこないながら、自己分析やSPIの勉強を進めていきました。そのなかで、自分が向いていると感じた金融系の企業への就職を決意。各企業が説明会を開始すると、毎日のように大阪へ足を運び興味のある企業の説明会に参加していました。その後はエントリーシートを書いたり、面接を受けたりを繰り返し、4月末に石川県の会社から内定をいただくことができました。

私はもともと関西への就職を考えていたのですが、親から「石川県に戻ってきてほしい」と言われ、改めて就職について考えてみました。そして、私は金融系の企業に就職したいのであって関西にこだわる必要はないという結論に達し、Uターン就職することに決めました。金融系であること以外に、私が企業を選ぶうえでポイントとしたことは、女性でも総合職で活躍しステップアップできるということ、そして福利厚生が整っており将来家庭を持っても続けられるということです。両親に大学まで行かせてもらい、苦勞して就職した会社を結婚や子育てで辞めるということはしたくないと思いました。

就職活動は、私のこれまでの人生で一番つらいものでした。「運と相

性の就職活動」ともいわれる就職活動は、努力したらその分報われるものでもありません。「自分のことをどれだけわかってもらえるだろう」とか、「受け入れてもらえるだろうか」という不安を抱え続けるものです。そんな状況のなか、親から「ちゃんと説明会行ったの?」と更にプレッシャーをかけられたことが私はつらかったので、就職活動をするお子さんのことは見守ってあげてほしいと思います。でも就職活動中に一番嬉しかったことも親との関わりのなかにあり、帰省したときにおいしいごはんを食べさせてくれたことが、心身ともに最も癒やされたことでした。また交通費などの出費がかさむので、金銭的なサポートもとてもありがたかったです。

就職活動を通して、自分はいろいろな人に支えられていることを実感することができ、将来親孝行したいという思いが強くなりました。私は親への相談のもとに進めることができたので、後悔のない就職活動を送ることができたと思っています。お互い納得がいくよう、就職活動を始められるお子さんとはきちんと話し合っておくことをおすすめします。



会場の雰囲気

会場のホテル外観



金沢駅から徒歩1分のホテルで開催。会場では父母同士で楽しそうに懇談される姿が印象的でした。



グループ別懇談会



金沢駅

参加者の声



和田さん ご夫妻
(法学部2回生)

今年はグループ別懇談会でほかの父母の方と話す時間が設けられており、悩みなどを共有することができました。2回生の親として、これまでの経験を1回生の父母の方にお話しました。

初めて懇談会に参加しましたが、先生方の説明や学生さんの体験談など、貴重なお話がいろいろと聞けてよかったです。遠く離れた娘の大学生活を知ることができたように思います。



高谷さん ご夫妻
(文学部2回生)

同時開催

アカデミック講演会 in Ishikawa

特集

全国各地で開催され、毎回好評をいただいているアカデミック講演会。今年度の第1回目の講演会は7月6日(日)に石川県で、都道府県父母教育懇談会と同時開催されました。今回は本学法学部の竹濱教授が法律について身近なテーマで講演。参加された父母にとって貴重な機会となりました。

保険契約における消費者保護

ここで取り上げる保険法は、比較的私たちの身近にあり、関わる可能性の高い法律です。この講演が少しでも皆さまの生活のお役に立てればと思います。

保険法は従来、旧商法に置かれていた保険の規定を独立させ、2008年に制定、2010年に施行された法律です。この法律が適用される範囲は保険会社や共済事業者がおこなう保険契約・共済契約となっています。契約をおこなう当事者を比較すると提供する側は保険の専門家であり、加入者側は素人です。このような状況を鑑みて、加入者側を保護する目的から、保険法は制定されました。保険法は主に、「絶対的強行規定」、「片面的強行規定」、「任意規定」の3つから構成されています。「絶対的強行規定」はそれに反する条文の約款は無効となりますが、「片面的強行規定」は、契約者に有利な内容であれば無効にならなくても不利な内容なら無効にできるようになっており、消費者を保護する規定となっていることがわかります。

続きまして、保険契約を締結する際に注意しなくてはいけない点についてお話させていただきます。自動車事故や火事など、起こり得る身の回りのリスクに対して経済的保障を提供するのが保険ですが、保険者はそれを引き受けるにあたり、契約者の保有するリスクを測定・評価して適切な掛け金や契約内容を判断しなくてはなりません。そのために、保険者側



立命館大学 法学部学部長
たけはま おさむ
竹濱 修教授

1986年立命館大学大学院法学研究科民事法博士課程後期課程単位取得退学。1989年立命館大学法学部助教授、1993年同教授。2003-04年および2007-09年同大学大学院法学研究科長。2006-08年法務省・法制審議会保険法部会幹事。2006-07年旧司法試験審査委員、2008-13年新司法試験審査委員。2012年より立命館大学法学部・学部長。商法を専攻し、なかでも保険法が主な研究分野。

は保険契約の締結前にいろいろな質問をします。この質問に対して、契約者側は事実に沿って答えなくてはならない「告知義務」が課されています。保険法第37条ではこの告知義務について、「保険事故の発生の可能性に関する重要な事項のうち保険者になる者が告知を求めたものについて、事実の告知をしなければならない」と定めています。契約者が故意または重大な過失で告知義務を違反すると、保険事故が起きたあとでも契約が解除となったり保険給付の支払いが無効となる規定になっております。故意や重大な過失とは、告知義務を知らずながら重要事実を告知しなかったり、著しい不注意によって告知を失念したりすることを指し、軽過失の場合は、契約者側は保護されるようになっています。ほかにも告知義務違反が生じていても契約締結のときから5年が経過しているときなどは契約解除されないなど、多くの点で消費者を保護する法律となっています。

告知義務をめぐっては、保険者側には契約者への質問内容を明確化することが求められています。内容が幅広く、漠然とした質問は認められない場合もあるため、通常の知識や理解力を有する保険契約者が答えられる具体的な質問をしなくてはなりません。保険の給付時期に関していえば、定められた期間までに保険金が支払われないと、保険金に利息が付く規定となっています。このように、保険法はいろいろな側面から一般の個人である消費者側を保護する規定となっておりますが、複雑なために紛争が起こりやすいことも事実です。保険契約を結ばれる際は、保険約款をきちんと確認していただきたいと思います。不明だと感じることは保険者側に問い合わせるなど、消費者側が適切に判断していくことも大切だといえます。



秋も開催決定!

立命館アカデミック企画 アカデミック講演会 in Okayama

参加無料

日時 10月25日(土) 13:00 ~ 14:40 (開場 12:30 ~)

申込方法 FAXにてお申込みください
【FAX】086-899-6321

会場 岡山シンフォニーホール (大ホール)

・氏名、住所、年齢、電話番号、FAX番号、メールアドレス、「在学生父母」を明記

テーマ 白川静と漢字教育
~白川静文化勲章受章10周年記念~

申込期間 ~9月19日(金)
※定員になり次第締め切り

講師 武田 鉄矢氏 (名誉漢字教育士)
加地 伸行氏 (白川静記念東洋文字文化研究所 副研究所長)

問合せ 050-3692-1212
(立命館アカデミック企画事務局)

アカデミック講演会のバックナンバーは
立命館大学父母教育後援会ホームページ <http://www.ritsumeifubo.com/> をご覧ください!

キャンパスライフ 1日密着

大学生になると、1日の過ごし方も学生生活で夢中になるものもそれぞれ。立命館大学生は日々どのようなキャンパスライフを送っているのでしょうか。衣笠、BKC 各キャンパスの学生の1日を追いかけてみました！

衣笠

宮野 梨穂さんの場合



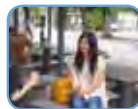
文学部 3 回生
大阪府出身、実家暮らし。
JAZZCLUB の部長を務めつつ勉強に励む。

趣味と勉強どちらも大切に！ 好きなことを両立させる毎日

入学と同時に JAZZCLUB に所属し、中学で 3 年間やっていたトロンボーンを再び始めました。現在は 150 人の部員数を誇る JAZZCLUB の部長を務め、週 2～3 回の練習やステージでのライブ、部の活性化などに日々尽力しています。学習の面では、卒業論文に向けて専攻の勉強に取り組みながら、スペイン語の検定にも挑戦中です。卒業後は観光に携わる職に就きたいと考えています。

🕒 My schedule for one day

8:00	10:40	12:10	13:00	14:40	16:30	21:00	22:00	24:00
起床	2 限目	昼食	3 限目	4 限目	部活動	帰宅	予習	就寝



晴れた日は友人と外でお弁当を食べます

部室があるのでいつでも練習できます



寝る前に次の日の予習をします



基礎練習のあと合奏に向かいます

よく友達と甘いものを食べるに行っています

1日の中で楽器を吹いているときが1番好きな時間です



＼わたしのマストアイテム／



ジャズの楽譜は必需品！毎日のスケジュールを管理する手帳も持ち歩いています

BKC

小川 龍一さんの場合



理工学部 2 回生
大阪府出身、実家暮らし。
趣味の水泳をいかしてコーチのアルバイトをしている。

大好きな水泳を楽しみながら、 将来の可能性を探っていきたい

今は比較的時間に余裕があるので、長年続けている水泳を中心にした生活を送っています。水泳指導のアルバイトでは教えることの難しさを実感しながらも、子どもたちとの交流が大きな楽しみになっています。大学の講義は徐々に専門的になってきており、最近では都市デザイン分野に興味が出てきました。将来の可能性を広げていきたいので、この夏は海外での語学研修や公務員の勉強に挑戦したいと考えています。

🕒 My schedule for one day

7:00	10:40	12:10	13:00	14:40	18:00	21:30	22:30	24:00
起床	2 限目	昼食	3 限目	4 限目	アルバイト	帰宅	予習	就寝

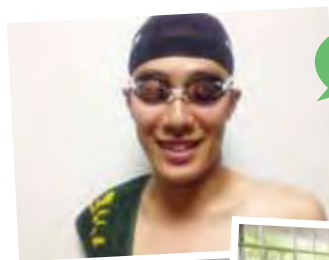


友人たちとシーキューブで昼食をとります

主に建築に関する勉強をしています



授業が終わったらアルバイトで気分転換



僕は背泳が得意です！

友人とおしゃべりが息抜きの時間です

子どもたちが慕ってくれる水泳のコーチが楽しみです



＼わたしのマストアイテム／



オリター団にももらったスケジュール帳、スマートフォン、電子手帳はスケジュール管理や勉強に必須です！

学生生活を
支える

親の心配、子どものホンネ。

子どもが社会に飛び出していくための大事なステップとなる大学生活は、父母にとっては子どもの成長を見守る最終ステージです。4年間の生活のなかで、父母と子どもの思いは知らない間に重なり合ったり、離れたりを繰り返していくことでしょう。普段はなかなか伝え合うことのない、親と子の心のうちを語っていただきました。

キャンパスライフ・親子

親 丹野 久さん

子 丹野 いぶきさん（産業社会学部2回生）

親の声

子どもはいろいろな経験を通して成長するもの 見守ることで親子の絆を深める

地元の岩手県を離れ京都で1人暮らしをする娘には、半年に1度くらいしか会えませんが、社会に対する考え方に変化があったり、政治の話ができるようになっていたり、会うたびに少しずつ成長していることを感じています。高校のときから離れて暮らしていたこともあり、遠く離れていてもあまり不安は感じていません。それよりも、いろいろな世界を知って見聞を広めてほしいという思いの方が強いですね。関西には祖母がいますし、亡くなった祖父は立命館大学の卒業生。いぶきという名前も、滋賀県の伊吹山からつけたものなので、こちらに縁があったのでしょうか。私自身も岩手を離れて大学生活を送りましたが世界を広められてよかったと感じていますし、娘にも多くのことを経験してほしいです。

私たち家族は夫婦ともに体育教師で子どもたち3人も運動が好きな、いわゆるスポーツ一家です。いぶきも小学校から今までソフトボールを続けており、今でこそすっかり健康ですが、幼稚園のときには、末端神経に障害が起こるギラン・バレー症候群という病気を発症したことがありました。入院を経て完治するのに1年ほどかかり、幼い時期に大変な思いをしたのではないかと思います。私にとっては子どもたちとのコミュニケーションの取り方など、子育てについて見直すきっかけともなったできごとでした。中学では部活動での友達関係に悩み、高校は親元を離れての下宿暮らし。干渉しすぎないのが我が家の子育ての方針ですが、

娘は若い割にいろいろな経験をして自分自身で考え、道を選んでいくなかで成長していったのだと思います。

現在の大学生活はとても充実しているようで、性格の明るさが増したように感じています。私が京都を訪れたときに娘のバイト先で友達や先輩と会う機会があったのですが、いい仲間に恵まれていることを実感しました。何が起るかわからない時代ですので、人とのつながりを大切に、いざというときに支え合える人間関係を築いてほしいと思います。娘は私と同じ教職の道を志しているようですが、私は娘の仕事や住む場所について特に要望はありません。どこにいても何をしても本人が満足していること、それが大切だと思っています。教師の仕事はやりがいがありますが、大変な仕事でもあります。つまりいたときは、今後は教師の先輩として、アドバイスしてあげたいと考えています。



子どもの声

立命館大学はボランティアなど東北の復興支援にも力を入れていることにひかれ、岩手県を離れて入学することを決めました。将来の夢は教師として地元の岩手に帰り、こどもたちに震災のことを伝えたり、県の復興に貢献することです。現在は教職課程をとっており、授業で疑問に思ったことなどを教師である両親に電話でたずねています。家を離れてさまざまなことを経験したことで、両親の偉かさや地元の良さを感じるようになりました。高校での下宿暮らし、遠く離れての大学生活などこれまでの進路を自分自身で選んでこられたのも、両親が私の意思を尊重してくれたから。おかげで、現在も先生や友人に恵まれ学部での学びや教職課程、ソフトボール部の活動、バイトなど充実した学生生活を送れています。私を信頼して見守ってくれる両親のためにも、夢に向かって頑張っていきたいです。



▼
父母教育
後援会の
新たな取り組み

あなたの本で被災地の 子どもたちに笑顔を

学校法人立命館では東日本大震災発災から1ヶ月後の2011年4月に、いち早く災害復興支援室を設置し、以来、福島県と連携協力に関する協定を締結するなど、東北地域の自治体や各種の支援組織との連携を図り、教育・研究を通じた復興への貢献や学生団体による支援活動など、さまざまな形で復興支援に取り組んでいます。被災地から遠く離れた教育機関において、このような専門窓口を設けて支援活動をおこなっているケースは珍しく、関西の大学では唯一といえる取り組みです。

また、全国から学生が集う立命館大学には、2014年度現在、東日本大震災における「特定被災区域（222市町村）」から706名もの学生が在籍し学んでいます。

このようななか、3万5,000の会員で組織されている立命館大学父母教育後援会としても、社会貢献活動として復興支援に取り組んでまいりたいと思います。具体的には、この取り組みに賛同いただける皆さまから古本による募金をいただき、立命館災害復興支援室が取り組むスポーツイベントなどを通じて、被災者の方の支援、被災地の復興に役立たせていただきます。ぜひこの活動にご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。また、会員の皆さまだけでなく、ご家族、ご友人にもお声がけいただければ幸いです。

皆さまからのあたたかいご支援を、心よりお願い申し上げます。





募金額 1,000万円を 目指します



立命館災害復興支援室はこれまで、現地のニーズに即しながら、正課・課外での学びを生かした専門性の高い支援を幅広く展開してきました。現在でも多くの学生がボランティアや復興プロジェクトで活動しています。

また立命館は日本プロ野球選手会と包括協定を結ぶなどスポーツを通じた社会貢献活動にも積極的に取り組んでおり、過去にBKCで開催された「ベースボールクリスマス」ではプロ野球選手が訪れ、約3万人がイベントに参加し、子どもたちは野球を通じてプロ野球選手を始めとした多

くの参加者と交流を深めました。

このようなイベントを通じて被災地の子どもたちにも笑顔を届けたいと考えております。1,000万円の募金額を達成するためには、1会員平均30冊（のべ100万冊）の古本が必要となり、皆さまのご協力なしには達成できない数です。皆さまからのあたたかいご支援を、心よりお願い申し上げます。

BKCで開催された「ベースボールクリスマス」の様子



3STEP!

古本募金の仕組みをご紹介します！

古本募金はとっても簡単です。電話1本であなたのお宅に取りにうかがいます。送料は無料です（4冊以下の場合には有料）。ご寄付いただいた古本は提携会社のバリューブックスに買い取られ、その買取金額が寄付金となります。

※詳細は同封している説明書・申込書をご覧ください。

STEP 1

本と申込書を
ダンボールに
入れる

STEP 2

お電話1本で
集荷の日時を
指定

STEP 3

宅配業者に
渡し、伝票を
受け取る

皆さまざまのご協力をよろしくお願い致します



朝食を
しっかり食べて
ほしい

父母の思いが繋がった!! 100円朝食レシピ コンテスト開催

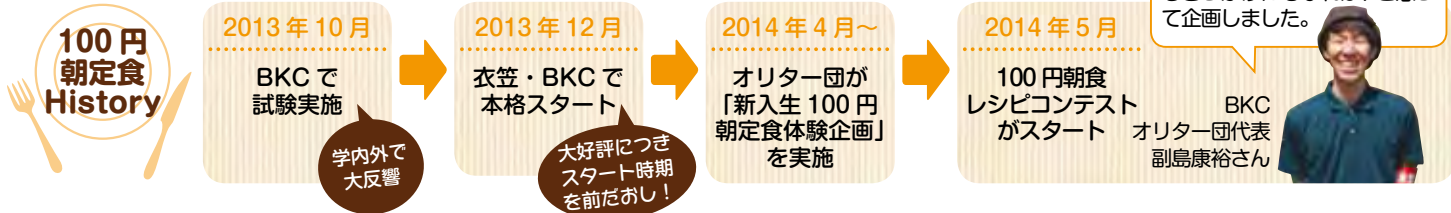
「生活リズムを整えてほしい」という父母の思いから始まった100円朝食。
その試みは大好評で、学生が食生活を見直すきっかけとなり、
ついには学生の発案によって「100円朝食レシピコンテスト」が開催!
学生からは100円で簡単に作れる朝食レシピが多く応募されました。



ぼくたちが企画しました!
食生活に興味をもつだけでなく、
新入生同士の交流を深める
きっかけにもなれば、と思っ
て企画しました。



コンテストが開かれるまで...



6月29日(日)
立命館大学
びわこくさつキャンパス

100円朝食レシピコンテスト決勝戦 突撃レポート!!

応募があった約70のレシピから、決勝戦にはBKCオリター団や各協賛企業による書類審査を突破した12のレシピがエントリー。当日はオリター団の頼もしい進行のもと、実際の調理や試食を通して最優秀賞などの各賞が決定されました。

100円朝食レシピの条件は費用を100円以内に抑えられること、手軽に作れること、栄養バランスがよいことです。制限時間10分というなかで学生たちはクラスで協力しながら調理を進めていきました。慣れない作業にあたふたする様子も見受けられましたが、最後にはどのクラスもおいしそうな朝食が完成。工夫が凝らされたレシピに父母委員などの審査員の方は感心しながら試食を楽しんでおられました。

表彰式には各賞受賞者にカルビー、大阪ガスなどの協賛企業から提供いただいた豪華な賞品が授与され、会場は大盛り上がり。父母教育後援会賞を受賞したクラスには「自炊を続けてほしい、伝統産業を大切にしてほしい」との思いから、京都の銘竹を使った「マイお箸」が贈呈されました。今回の試みは学生たちに留まらず、コンテストに参加された方全員にとって自炊の楽しさや健康管理の大切さを再確認するきっかけとなったのではないのでしょうか。

調理の場面では、学生たちのチームワークが光ります



豪華な賞品がスラリ!



発想力豊かなレシピにびっくり!



どのレシピもおいしかったから審査が難しい...



最優秀賞

スポーツ健康科学部 Cクラス

Spinach curry and orange yoghurt ★



レシピはお母さんの料理からヒントをもらいました。いつも栄養バランスを考えてくれてありがとうございます!

ほうれん草をたっぷり使ったカレーとみかんのヨーグルト



カルビー賞

経済学部 国際経済学科 08クラス

朝からヘルシーモーニング



受賞できて嬉しいです。フレンチトーストはお母さんの味になればいいな、と思いながら作りました。

フレンチトーストとフルーツのスムージー



100円朝食がこんな企画にまで発展して、本当に嬉しいです。これからも自炊をがんばってください!

父母教育後援会
竹内副会長



父母教育後援会 HP では、コンテストに参加したすべてのレシピを公開中!
「100円朝食レシピコンテスト」の投票を引き続きおこなっています。
皆さまの投票お待ちしております。

▼
**父母教育
 後援会の
 事業報告**

学生証提示で無料 or 割引に! 文化・芸術施設の利用をサポート

「学生にもっと文化や芸術にふれあう機会を」という父母の声を受け、今年度から始まったキャンパスメンバーズ加入への支援。これをきっかけに、多くの学生が美術館・博物館を新しい学びの場としています。

美術館や博物館をもっと身近な存在へ

キャンパスメンバーズとは、学生に美術や文化、歴史などに親しんでもらうために設けられた会員制度。これに加入していると、対象の施設で常設展は無料、特別展は割引料金で観覧することができます。また関西の大学では珍しく、東京の施設の利用もサポートしています。これは立命館大学の学生が関東でも幅広く活動しているため、多くの学生が利用しやすいようにと考えてのこと。ほかにも父母教育後援会では、京都市内にある30以上の文化施設を優待利用できる京都市キャンパス文化パートナーズ制度の加入も支援しており、一人ひとりの興味を広げられる環境を整えています。これらの制度により、学生が学びや研究を深めていくことが期待されます。

【主な対象施設】

- 東京国立近代美術館
- 京都国立近代美術館
- 国立西洋美術館（東京都）
- 国立国際美術館（大阪市）
- 国立新美術館（東京都）
- 京都国立博物館
- 奈良国立博物館
- 国立民族学博物館（吹田市）
- 京都市美術館 …など



国立新美術館



京都国立近代美術館

100
 朝食・キャンパスメンバーズ

奈良国立博物館を利用しました！

キャンパスメンバーズを利用して、奈良国立博物館を訪れた文学部4回生の星屋さんに密着。費用を気にせず美術館・博物館をめぐるができるキャンパスメンバーズは、学生にとって心強いサポートです。

これまで幅広く美術館や博物館を利用してきましたが、地元にあるこの博物館を利用するのは初めて。心待ちにしていたキャンパスメンバーズ制度への加入が実現し、より多くの施設に足を運ぶきっかけができて嬉しいです。静かな空間でゆっくりと芸術や歴史の世界に浸れるのは、美術館や博物館を訪れてこそ。インターネットからは得られない発見や刺激があり、新たな興味を広げることができる場だと思っています。今後は友達を誘って訪れたり、大学での学びを深める場としても活用していきたいですね。



文学部4回生
 星屋 玲子さん

奈良県在住。目標は4年間の学びを生かせる仕事に就くこと。学芸員課程を履修中。



仏像の美と歴史にふれられます



おしゃれなカフェが併設



キャンパスメンバーズで初利用!

奈良国立博物館

奈良公園の一角にあり、およそ120年の歴史を持つ博物館。飛鳥時代から続く仏教美術の名品が数多く展示され、日本文化の悠久の営みを感じることができる。



オリジナルグッズがたくさん



就職活動時期を迎えた わが子とのかかわり方

就職活動に向けて子どもたちがすべきことって？就職活動中に親は何をしたらいいの？…など、親の就職活動への疑問や心配は尽きることがありません。3名の在校生・卒業生の父母と、キャリアセンター部長が対談し、就職活動の“本音”を語り合いました。



岩橋直子さん
(映像学部卒業生：娘)

中田稔子さん
(経営学部3回生：息子)

樽谷珠代さん
(法学部1回生：娘)

石原一彦教授
キャリアセンター部長

いくつになっても子どもは心配だけど… 就活のサポートはキャリアセンターに

— 子どもの就職活動に不安はありますか（ありました）か。

樽谷 娘は法曹界を目指して法学部に入学しましたが、資格を取っても就職難という時代。資格を取得できるのが最短で6年後ですし、そのときの状況がどうなっているのかという不安もあります。資格以外にも学生生活で身につけるべきものはあると思いますし、そこも気になるところです。

中田 就活を迎える3回生の息子から少し前に、マーケティングに興味を持ったと聞いて、本人なりに目標を見つけたのだと感じました。就職活動に関しては、私は陰で見守ることしかできませんが、社会がグローバル化して最低限の語学力が求められることは事実なので、そのことなどは伝えていきます。でも息子はいわゆるゆとり世代。そこから脱することができるかどうか少し心配ですが…。

岩橋 娘は今年卒業しましたが、就活中に私から特別に何かをしたことはありません。ただ、「大学にあるキャリアセンターを利用してみたら」と、そのことだけは何度も言いました。今の学生や就職事情について1番理解している場所だと思いましたから。最初は躊躇していた娘でしたが、何度も足を運びアドバイスをもらったり模擬面接を受けたりしていくうちに、すっかりなくてはならない存在になったようです。娘は東京を中心に就職活動をしていたので東京キャンパスをよく利用していましたが、そこでも就職相談に乗ってもらっていたようです。

— キャリアセンターでは就活生にどのような対応をしていますか。

石原 キャリアセンターでは相談内容や参加した支援企画などを学生ごとに記録しており、どの職員でも対応できるように体制を整えています。相談に乗るうえで意識していることは、学生に“答えをあげる”のではなく、自分で考えさせて答えのある方に導いてあげるということです。

就職活動を通して自分自身のことを考え知っていくことは、成長につながります。その成長をサポートするのが、キャリアオフィスの役割だと思っています。

岩橋 なるほど。「キャリアセンターに行っても特に何も得られなかった」と言っている学生さんは、行けば簡単に答えがもらえると思っているのかもしれませんが。でも実際、キャリアセンターで何を聞いたらいいのかわからない学生さん多いと思います。

石原 そういう学生さんに対しては、「何に興味があるの?」、「どうして興味がある?」、「どういうところが?」など、就職活動に直接関係ないような質問からアプローチしていきます。まずは学生が持っている軸となるものを気づかせてあげることから始めていくのです。学生が自分で考える力こそ企業が求めていることですから。「私はどうしたらいいですか」と受け身で答えを求める学生は、内定が決まるのが遅いように感じます。

中田 今のお話を聞くまでは、キャリアオフィスはハローワークのような存在なのかと思っていました。こんな施設を利用して就職活動をすれば、本当に行きたい会社を自分で見つける力が身につくかもしれませんね。

石原 現代は3年以内の離職率が3割程度といわれています。将来のキャリアビジョンをしっかりと立てたうえで就職に結びつけていかないと、長く働くことが難しくなるのかもしれません。自分としっかり向き合い、自分が本当に好きなこと、やりたいことを見つければ、自ずと自信を持って就職活動に挑めるのではないかと思います。

留学経験や資格取得は就職に必須!?

とらわれやすい“題目”の落とし穴とは

— 学生が就職するまでに身につけるべき能力とは。

石原 「就職活動には語学力や資格取得が必須」と思われている方もおられるかもしれませんが、例えその能力を身につけていても、自分がそれをどう使えるかアピールできなければ意味がありません。

中田 留学しても今では当たり前の時代ようですが、だからこそ面接でただ「留学を経験しました」とアピールしても、「だから何なの?」って返されてしまいますよね。

石原 そうですね。留学に行くことは入口であり、成果ではない。「なんで留学をしたのか」という目的意識と、「そこで何を学んだのか」を体験に基づいて語れる人間にならなくては意味がありません。最近「就職活動には留学がいい」「問題解決能力が必要」というお題目がひとり歩きしているようですが、表層的に捉えるのではなく、本質を捉えてほしいです。

樽谷 親も同様、留学したら大丈夫なんていう単純な考えを持ってはだめですね。逆に「留学しないと大企業に就職できない」という思い込みも危険ですね。

中田 そもそも、大企業を絶対的に信用していることが問題なのかも知れませんね。「親が納得しないから大手以外は受けられない」という子どもも多いようですが、どんな会社だって倒産したり合併したり、どうなるかわからない時代ですから。

石原 大手に就職しても実際に働くのは、その子会社の、そのまた子会社だったりすることもあります。要はどこであれ本人の生き抜く力が必要なわけで、そういう意味で企業は関係ないのです。

就活を通して成長する我が子を見守り、子育ての終着点にある“子離れ”に喜びを

— 親はどのように子どもを見守っていきべきなのでしょう。

石原 まず親御さんにおたずねしたいのは、子離れは楽しくないのかなということです。子どもが就職活動を通して親離れていくことを楽しんでほしいのです。就職活動を迎えたお子さんと接するときは、聞き上手になって下さい。頭ごなしに否定することはせず、あくまで対等な関係として子どもの意見を聞いてあげることが大切だと思います。

中田 周りを見ても、子離れできていない親が多いようです。自分が若い頃は親に干渉されて嫌な思いもしたはず。それを思い出して、まずは口出しせずに見守る立場に徹してはどうかぁと思うのですが…。

岩橋 娘の友達と話していたら、就活で1番大変だったのは親への対応、気遣いだったと言った子が何人もいました。私の経験から言うと、親は

アンテナだけを立てて、何もしないことが1番。あれこれ詮索してプレッシャーを与えるのではなく、子どもから自発的に話してくるのを待つことです。それから、エントリーシートを親が書くなどという話を聞いたことがあります、そんなことをして自立の芽を摘むようなことは決してしないでほしいですね。

樽谷 大学生の子どもを持つ親は、改めて子どもとの関わり方を学んだり考えたりする必要があるのかもしれないですね。

中田 上の娘が就職活動中に、親に何をしてほしいか尋ねたら、「就活に必要な交通費を援助してほしい」と。確かに、セミナーや面接に何度も足を運ぶ姿を見ると、それが本音なんだろうなと思いました。

岩橋 黙っていても、子どもは大人になっていくもの。何もなくても、就職活動を通してどんどん成長していく娘を見ることができました。私自身は娘の就職活動を経て、就職活動とは会社と“縁があるかないか”、“合うか合わないか”を試すということだと実感しました。就職活動を迎えるお子さんも親御さんも、なかなか決まらなくても落ち込まず、就職活動を前向きに捉えてほしいです。

石原 何社も面接に落ちていくと、社会から否定されているように感じて落ち込む学生が多いのは事実ですが、キャリアセンターは学生さんをずっとフォローしていきますし、メンタル面も大学を挙げてサポートしています。親御さんはお子さんのことを過剰に心配なさらず、子どもの成長を楽しんで見守っていただけたらと思います。

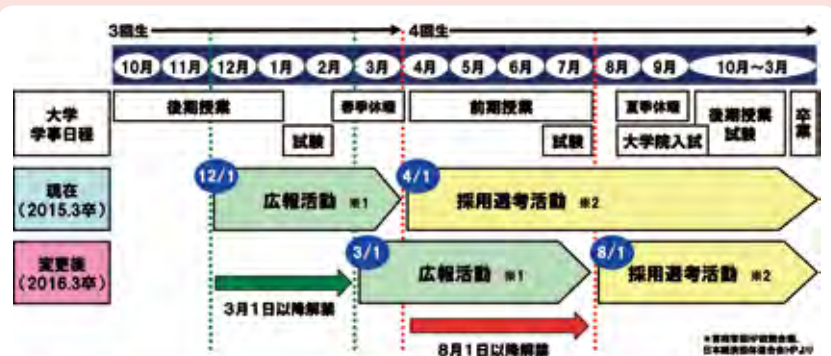


座談会

2016年度卒から就職活動のスケジュールが変わります!

就職活動の開始時期が3ヶ月遅くなることにより就職活動期間が短くなりますので、最新の情報をキャッチアップしていく必要があります。卒業後の進路・就職について自ら考え、しっかりと準備を進められるように、キャリアセンターで実施される学内企画などを積極的に活用するようお願い下さい。しかし最も大切なことは、正課・課外の学生生活を充実させることです。サークルやゼミなどで自らの役割を全うすることが、進路・就職の実現につながっていきます。

<新スケジュール概要>



- ① 広報活動 #1 3年生12月 ⇒ 3年生3月以降解禁
- ② 採用選考活動 #2 4年生 4月 ⇒ 4年生8月以降解禁

※1 採用を目的とした情報をもとに学生に対して開催する活動。採用のための実質的な選考とならない活動。
 ※2 採用のための実質的な選考を行う活動。採用のために参加が必須となる活動。

衣笠
政策科学部

上久保誠人ゼミ

幅広い学問領域から問題解決に迫る政策科学。ゼミ生の研究内容が全く異なるからこそ、個人の主体性が問われます。互いを刺激し高め合い、競争力を養う上久保ゼミの様子をお伝えします。

ゼミの学びを通して社会の動きに興味をわき、多様な視点でニュースを見るようになりました。

ゼミを通して、自らものごとに感心を持って学ぶ力と、柔軟に考える力がついたと思います。

インターン選考などのグループディスカッションで、きちんとした意見を言えるようになりました。

ゼミ生皆が幅広い分野の研究をしているので、視野が広がりました。

ゼミ生 voice

上久保先生の影響で、海外の大学での学びに興味がありました。

上久保先生はどのような研究内容でも適切なアドバイスを与えてくれる、エネルギッシュな先生です！

ほかのゼミ生の研究からさまざまな情報を得ることができます。

自主ゼミで書評を繰り返すうち、そこから得た知識を皆の前で発表することが楽しく感じられるようになりました。

ゼミスケジュール

3回生

- 前期：個人研究のテーマ選定、基本的知識の習得
- 夏季休暇：香港中文大学訪問 ※希望者のみ
- 後期：個人研究、プレゼンテーション

4回生

- 前期・後期：個人研究、卒業論文作成



さまざまな学問からアプローチして 1つの問題を解決

私のゼミでは、学際的研究としての政策科学を追究しています。政策というものは、政治という過程を経て形になるものですが、政策を語るうえでは法学や経済学、社会学、環境論など他分野のさまざまな知識も必要となってきます。例えば、今日のゼミで学生がプレゼンしていた「コンバイントサイクル発電」などの環境問題に取り組む場合には、そのシステムの理系的な知識はもちろんのこと、先進国と途上国の国際政治問題にも目を向けなければ、現実的な解決策を得ることはできないのです。

ゼミ生には2つ以上の学問領域にまたがる研究テーマを求めています。社会問題に関するものであれば基本的にテーマは自由です。実際、「教育改革」、「アジア共同体論」、「地方分権」、「障がい者行政」などゼミ生のテーマはさまざま。私のゼミではゼミ生が1人で研究テーマを設定して調査し、3回生のときから論文を執筆しています。4回生でその論文を発展させて卒業論文を執筆するのですが、この作業を通してゼミ生は自分の研究テーマについて誰にも負けないくらいの知識を持ち、自分自身の考えを確立していきます。1つのテーマに徹底的に取り組めば、自分にも自信がつかますし、その自信が社会に出てからどんな困難に直面しても克服できる力になると考えています。

自主ゼミを通して自ら考える力を養う

私のゼミでは週に1度、ゼミ生運営で「競争力養成講座」と題した自主ゼミをおこなっており、そこはより自主的で積極的な学びの場となっています。このゼミは、課題をしてこなければ参加することはできません。私が学生に取り組んでほしいことのひとつに家庭学習があり、これは日本の学生が他国の学生に比べて家庭学習量が不足していることを大きな問題としてとらえているからです。そのため、このゼミでは毎週1冊以上の学術的文献の書評作成と、ゼミ内でおこなう時事問題の批判的考察によるディスカッションの準備を課題としています。事前に

勉強し自分の意見を持ったうえでディスカッションに臨まなければ、レベルの高い議論を展開することもできませんから。

また1日3時間を英語の学習時間にあてることも課題のひとつです。これは将来、国際的な舞台での活躍を視野に入れてのこと。この自主ゼミでは昨年、香港の中文大学で海外フィールドワークをおこない、大学の授業のディスカッションに参加させてもらいました。意識の高い現地の学生との英語の議論に苦労したと思いますが、その経験こそが大切なこと。たたきめられてこそ、今後の糧になるのだと考えています。

海外フィールドワークは情報収集や現地の調整など、すべての段取りを学生自身がおこなっているのも特徴です。自分たちで考えて、ゼロから答えを出すところまでのすべてを学生自身でおこなう、そのことに意義があるのです。このゼミでの学びを通して、ゼミ生には自ら考えて行動できる力を持ち、社会に出て行ってほしいと考えています。



上久保 誠人

かみくぼ まさと

政策科学部・准教授

1968年愛媛県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。伊藤忠商事(株)勤務を経て、2008年、英国ウォーリック大学(University of Warwick)で博士号(政治学・国際学)取得。2010年立命館大学政策科学部に赴任。専門は国際政治経済学。博士論文のテーマは大蔵省・金融制度改革の政策過程。「中央公論」等の論壇誌、ウェブ・ジャーナルなどで政治評論も行っている。



レジメを用意して研究の進捗報告



ゼミは学生が主体となって進行する



的確なアドバイスで学生をサポート

編集 後記

取材当日は学生3名から「エネルギー革命」、「外交安全保障政策」、「メディアの観点から考える日中関係」という幅広いテーマのプレゼンを聞くことができた。さまざまな研究領域に対して、するどい意見を述べる学生、的確にアドバイスをする先生の姿が印象的だった。自主ゼミは「競争力養成講座」と題し、より学生が主体的に学ぶ姿勢を問い、毎週書評やディスカッションの準備など欧米の大学さながらの課題を与えられる。社会に出てから生き抜く力を養える学びだと感じた。

BKC
経営学部

善本哲夫ゼミ

ものづくりを通して社会をよくし、その代価として報酬を得る。善本ゼミでは、この発想を土台に「現実を見る目」を養うことに力点をおいています。その一環として、最近では産業と社会の新たなインターフェースを考えるための研究を進めています。

何でもモノや体を使って体験できます。広い視野と異なった思考を身につけられました。

おもしろい!楽しい!善本先生は学生と同じ目線に立ってくれますよ。

ゼミで体験した課外活動を通して、自分の知らないことをたくさん学習することができました。

工場見学を体験してものづくりの楽しさを学びました。

ゼミ生 voice

農業や地域活性など一見関係ないようなことから経営学を学べます。

善本先生は、学生のことを大事にしてくれるとっても熱い、良い先生です!

このゼミを通して人とのつながりの大切さを知りました。

このゼミで学んで、企業における諸問題を、全体的な視野で解決する力を育むという目標が見つかりました。

ゼミスケジュール

3回生

- 前期：グループ研究、プレゼンテーション合宿
- 後期：卒業研究のテーマ選定及びゼミ論文執筆

4回生

- 前期・後期：個人研究、卒業論文執筆



日本の“ものづくり”が、 今、社会のために何ができるのか考える

私は“ものづくり”が経営として成り立つシステムについて研究しています。他方で、我々の身近なモノを提供する日本製造業そのものに元気がありません。今一度、日本製造業にみる“ものづくり”発想をもって、社会のために何ができるのかということ、学生たちと一緒に考えています。

よりよい社会を目指すために科学技術の成果を活用すると同時に、事業としての持続性や収益性も考える。このゼミでは“ものづくり”を社会の問題解決を通じた経済活動と位置づけ、学生が主体的に研究に取り組んでいます。

“ものづくり”を通して考える 地域の中につくる“子どもたちの居場所”

最近、街づくりとかコミュニティづくりが提唱されています。しかしその反面、中心市街をはじめ、子どもたちの遊ぶ場所がなくなってきています。そこで、今回は子どもたちの居場所をつくるために科学技術で何ができるかを考えようと、ワークショップを実施しました。科学技術を社会技術として地域に実装し、課題を解決する。企業はその対価として利益を得る。その道筋についてワークショップを通じて学ぼうというものです。

研究でもゼミでも交流が深い情報理工学部の音響工学研究室に協力してもらい、超音波スピーカーを提供してもらいました。また量販店で我々が普通に買えるスピーカーも用意しました。これらを組み合わせ、「音」環境を制御する発想をもって、子どもたちの居場所をどうやってつくるか考えようというテーマなのです。

地域が抱えている問題を自ら体験して 生まれるロジックこそ大切

今回はグループワークによりまとめた意見を、プレゼンテーションしてもらいました。このゼミでは、今日のようなワークショップの成果を

まとめあげるためのロジック構築訓練として、テキストの「音読」「輪読」にも取り組んでいます。ちなみに今年のテキストは「場所の現象学」という本です。昨年は、「ものづくり敗戦」でした。

ワークショップやテキスト輪読での学習が頭でっかちな耳学問とならないよう、工場など製造業の現場見学や地域活性化の現場体験、農業作業経験を積極的に実施しています。「現実」のおもしろさを肌身で感じる、このスタイルを重視しています。現実のおもしろさにふれた学生は、自然と必要な知識を自分で獲得しようとし、指導教員として、こうした学生の姿勢をサポートすることが大事だと思っています。ゼミでの学習を通して、何が問題なのかを発見する力、また、何でも「自分でやろう」という生きる力、つまり生命力を高めてくれたら嬉しいですね。



善本 哲夫

よしもと てつお

経営学部経営学科・教授

2004年同志社大学大学院商学研究科博士後期課程退学後、東京大学ものづくり経営研究センター 特任助手に。企業システム論、技術管理論の研究に取り組み、同志社大学商学部講師を経て2007年から現職。立命館大学デザイン科学研究センター、センター長。



グループ・ディスカッションを通して
コミュニケーション力アップ



情報理工学部の協力を得てスピーカーを
使った実践的なワークショップ



メンバー一人ひとりが発言することで自分の
意見を伝えるプレゼン力が身につく

部活動 & サークル Watching

第3回

立命館大学には、何百団体もの部活動 & サークルがあります。このコーナーでは世界で活躍を見せる実力派から独自路線をいく個性派まで、さまざまな団体の活動を紹介していきます。第3回目は、全国1位に輝くかるた会と華やかなステージが人気のカラーガードサークル取材しました。

かるた会

【部員数】19人(男6人:女13人) 【活動場所】衣笠:衣笠セミナーハウス(火木) / BKC:エポック21(水)
【活動時間】火水木授業後 【雰囲気】試合に向けての練習は真剣に、それ以外は楽しく
【目標】全国職域学生かるた大会の3連覇 【PR】初心者も歓迎です!



トップクラスの実力で目指すは 全国職域学生かるた大会連覇!

1対1で向かい合い札を取り合う姿から、畳の上の格闘技ともいわれる競技かるた。その全日本大学かるた選手権大会で2007年から2011年にかけて5連覇を果たした実力を持つ立命館大学かるた会は、年4回開催される大会に向けて日々チーム内で練習を重ねています。個人でもトップランクの実力を持つメンバー同士の戦いはハイレベルですが、週1日は初心者メンバーのための練習日を設けるなど、誰でも参加しやすい雰囲気づくりを心がけています。



左/3月の全国職域学生かるた大会予選下/同大会決勝戦



上/3月の全国職域学生かるた大会で2連覇 左下/練習風景 右下/大会や練習で使用する会のかるたの札

会長からひと言

老若男女問わず行えるのがかるたの魅力。かるたを通して他大学との交流を深めることもできます。今後は会長として団体戦で力を発揮し、「強い立命館」の伝統を守ってまいります。



上山 陽子さん
文学部3年生

カラーガードサークル LUSTER

【部員数】33人(男16人:女17人) 【活動場所】リンクスクエア2Fリプロスペース 【活動時間】水木授業後、日
【雰囲気】とにかく明るい 【目標】お客さんも自分たちも皆が楽しむショーを行うこと
【PR】ゼロからつくりだしていく達成感があります!



関西唯一のサークルとして カラーガードの魅力を発信!

カラーガードとはフラッグやライフルなどの手具を用いて行う演技。独学で研究したり、先輩から受け継いで技を身につけていきます。人をひきつける華やかなパフォーマンスに各所から声がかかり、学園祭だけでなく、地域のイベントや東北の被災地などで披露。観客の方を楽しんでもらえるよう、舞台に合わせて選曲や構成、振り付け、衣装制作などを行っています。



左/5月に東北復興ボランティアとして大船渡市の祭に出場 下/昨年の学園祭ステージ



上/昨年の学園祭ステージ 左下/昨年11月の「みなくさまつり」で披露 右下/サークル仲間でスノボに

代表からひと言

ゼロからショーをつくりあげていくことは苦勞もありますが、その分喜びややりがいを感じています。今後も学内外で積極的にカラーガードを披露し、多くの人を楽しんでもらいたいです。



多賀 祐亮さん
生命科学部3年生

学生イベント&スポーツ

SPORTS

【問い合わせ先】 スポーツ強化センター：075-465-7863

スポーツ関連団体の主な成績（2014年4月～6月）

団体名	開催日	成績
硬式野球部	4月5日～5月27日	関西学生野球連盟春季リーグで優勝（4季ぶり34回目の優勝）
相撲部	4月13日	第2回国際女子相撲選抜堺大会で相撲部団体準優勝、山中未久さん（スポ健3）が個人中量級優勝、無差別級3位
男子陸上競技部	4月22日 （ロードの部） 5月7日～10日 （トラック&フィールドの部）	第91回関西学生陸上競技対校選手権大会男子ハーフマラソンで吉村直人さん（経営4）が大会新記録で優勝、男子1部1,500mで山本大志さん（経済3）が優勝、男子走幅跳で青山耕也さん（スポ健2）が優勝、男子1部三段跳で高橋佑吾さん（スポ健1）が優勝、男子円盤投で堀江省太さん（スポ健3）が優勝
	6月8日	全日本大学駅伝・関西学連出場大学選考競技会で優勝
	6月12日～15日	第16回アジアジュニア陸上競技選手権110mHで鍵本真啓さん（スポ健1）が2位入賞
女子陸上競技部	4月22日 （ロードの部） 5月7日～10日 （トラック&フィールドの部）	第91回関西学生陸上競技対校選手権大会女子七種競技と女子走高跳で西村莉子さん（経営3）が優勝、女子400mHで王子田萌さん（スポ健3）が優勝、女子200mで小山晶さん（経済2）が優勝、女子ハンマー投げで佐伯珠実さん（産社3）が優勝、女子10,000mで津田真衣さん（経営4）が優勝、女子400mで小田垣亜樹さん（経営3）が大会新記録で優勝
	6月12日～15日	第16回アジアジュニア陸上競技選手権大会10,000m競歩で河添香織さん（政策1）が優勝
ソフトテニス部男子	5月3、4日	関西学生春季1部リーグ戦で優勝（2年ぶり3回目の優勝）
	6月24日～26日	第34回全日本大学ソフトテニス王座決定戦で3位入賞
ソフトテニス部女子	7月5日	西日本大学対抗ソフトテニス選手権大会で3位入賞
卓球部男子	5月11日	関西学生春季卓球リーグ戦で優勝（2季ぶり22度目の優勝）
	5月30日～6月1日	第83回関西学生卓球選手権大会男子シングルスで矢城智宏さん（産社3）が優勝
弓道部	5月24、25日	関西学生選手権男子団体で6連覇達成
	6月28、29日	第26回全国大学弓道選抜大会で女子団体準優勝、男子団体3位入賞
日本拳法部（男子）	6月1日	全国大学選抜選手権大会で優勝（2年ぶり2度目の優勝）
ホッケー部	6月27日～7月1日	第33回全日本大学ホッケー王座決定戦で男子が優勝、女子が4位を獲得



食堂

学生のキャンパスライフを支える

立命館大学の衣笠、びわこ・くさつキャンパスにある約10の食堂では、学生生活のパワーの源となる朝昼晩のごはんや軽食を提供。豊富なレギュラーメニューに加え、部活動の試合や季節のイベントに合わせた期間限定メニューを多数用意しています。学生とも共同してメニューを企画するなど、学生をサポートする存在として大学生活を支えています。前日には仕込み等をせず当日にのみ調理し、新鮮さや衛生面を重視するなど、学生に美味しいごはんを楽しんでもらうために、さまざまな工夫をしています。

また、健康的な食べ合わせを提案したりメニューの栄養バランスをレシートで提示したりするなど、学食を通して学生の健康意識を高めてもらうための取り組みも積極的におこなっています。最近では、入学前に学生と父母の皆さまに食堂のメニューを体験してもらう企画を実施。食堂に親しみながら健康について考える4年間となるように、バランスのよいメニューの選び方などを知る機会を設けています。



こんな事を行っています！

メニュー・座席の種類が豊富

メニュー数が100近くに及び食堂もありますが、レギュラーメニューは1週間ごとに味つけを変えるなどの工夫をしています。数年前には改装をおこない、1人でも利用しやすいカウンター席を設置して席のバリエーションを増やしました。



上/諒友館食堂のカウンター
右/ずらりと並ぶ存心館食堂のおかず

学生企画のメニュー

部活動・サークルやゼミの活動などを充実させる目的で、学生がメニューを企画することも。食堂のスタッフと話し合いを重ね、栄養バランスなどを考慮しながら実現へとつなげていきます。



上/国際関係学部の学生が考案した難民メニュー 右/学生企画メニューも種類豊富

食育を意識

揚げ物など肉料理に偏りがちな学生にバランスよく栄養を摂ってもらうため、野菜や根菜類の小鉢を多数用意。また食べ合わせの提案は、学生がメニューを選ぶうえでの参考になっています。



食べ方提案のポスター



色々な種類が用意されている小鉢

100円朝定食の提供

学生が食生活を見直す目的で企画された100円朝定食は2013年12月の本格スタート以降、学内外で話題となり、今や1日1,000人が利用する立命館大学の食堂の代表的メニューに。開始時間前から学生が行列をつくれます。



上/BKCの100円朝定食の例
右/開始時刻の食堂



衣笠、びわこ・くさつキャンパス内全食堂紹介！

立命館大学の食堂はあらゆる学生のニーズに合わせるため、用意しているメニューや食堂の雰囲気を変えています。バラエティーに富んだ衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスの全食堂をご紹介します。

衣笠



存心館食堂

夜の9時半まで営業しており、閉店間近までサークルや自習などに励む学生でにぎわう。
時間：【月～金】10：15～21：30
【土】11：00～15：00
席数：486席



諒友館食堂

数年前に全面リニューアルし、1人でも利用しやすいカウンター席を設置。メニューだけでなく席の種類も豊富。
時間：【月～金】10：30～17：00
席数：386席



以学館 E-platz

朝8時から営業し、100円朝定食を提供。多くの学生が授業前に利用している。丼メニューが充実。
時間：【月～金】8：00～15：00
席数：437席



諒友館地下 Cafe ROSSO

クレープやパフェなどのデザートメニューが豊富。天気のいい日は屋外の席が人気。
時間：【月～金】11：00～18：00
席数：362席



Cafe ゆんげ

ソファ席やオープンテラス席でくつろげるカフェ。7.5kgあるスーパーデラックスパフェが店の名物。
時間：【月～金】11：00～18：00
席数：168席



弁当ハウス できた亭

持ち帰り専門のお弁当屋さん。お昼頃には長い列ができる。お弁当とドリンクのセットがお得。
時間：【月～金】10：30～13：30
席数：なし

テイクアウト専用 /

BKC



ユニオンスクエア食堂

(1F) ユニオンカフェテリア
常に多くの学生でにぎわう食堂は夜遅くまで営業。日替わり・週替わりメニューもあり種類が豊富。
時間：【月～金】10：30～21：30
【土】11：00～14：00
席数：662席

(2F) ユニオンフードコート
100円朝定食を提供。和食を中心とした健康的なメニューが並ぶ。学内で唯一留学生のためのハラルメニューを用意。
時間：ライブキッチンエリア
【月～金】8：00～14：00
席数：1101席



SUBWAY

野菜たっぷりのサンドウィッチをオーダーメイド。
時間：【月～金】8：00～21：00
【土】10：00～17：00
席数：セントラルアーク内の席を利用



ランチストリート

生協や地元のお店がワゴンでお弁当などのランチを提供。
時間：【月～金】11：30～13：30頃
席数：なし

テイクアウト専用 /



リンクカフェテリア

研究室が隣接しており、理系の学生が多く利用する。週替わりオムライス、チャーハンが人気。
時間：【月～金】10：15～16：00
席数：942席



カフェレストラン Cキューブ

落ち着いた雰囲気が人気のカフェは、全品注文を受けてから調理をおこなうオーダーメイド式。
時間：【月～金】11：15～20：00
【土】12：00～19：00
席数：204席



ドリームクロスカフェ

クレープやコーヒーなどを販売しており、授業の合間に利用するのにぴったり。
時間：【月～金】10：00～17：00
席数：セントラルアーク内の席を利用

存心館食堂
島田店長



毎月店長会議をおこない、新しいメニューを考案したり問題点などを話し合っています。現在は「冷たいものは冷たく、温かいものは温かく」提供することを1番の目標とし、作り置きをせず、でも学生を待たせないよう、混雑状況やキャンパスの男女比などを計算して調理しており、いつでもおいしいごはんを食べていただけるご準備をしております。

大学施設紹介

立命館大学父母教育後援会表彰制度 2013年度受賞者一覧

立命館大学父母教育後援会表彰制度設置趣旨ほか

立命館大学父母教育後援会では、毎年、主に正課に関わる分野で著しい成果をおさめた学生・団体を奨励し、広く内容を公表することにより、学生が意欲的に目標に向かって研鑽する環境づくりに貢献することを目的として表彰制度を実施する。

1. 表彰の種類

- (1) 学部長最優秀賞 個人・団体 (奨励金 20 万円)
- (2) 学部長優秀賞 個人・団体 (奨励金 10 万円)
- (3) 学部長教育賞 個人・団体 (奨励金 5 万円)

2. 表彰対象

2013 年度に在学または留学している学部学生で、他の学生の目標となる成果をおさめた個人・団体。

3. 選考基準

創造的・個性的な取り組みや、優れた成果をおさめた取り組みを対象とし（他の学生の模範となるような取り組みを厳選）、各学部にて基準を設定する。

4. 募集と選考時期

- (1) 募集の方法および募集時期は各学部で決定する。おおむね、1 年間の活動の成果が出揃い、選考可能な 1 月末を目処に行う。
- (2) 選考は 2 月末を目処に各学部の選考委員が行い、父母教育後援会で審議、決定する。

5. 表彰式

- (1) 2014 年 3 月卒業該当生は、各学部にて卒業式当日に実施する。
- (2) 2014 年 3 月卒業該当生以外は、各学部にて在学生在が多数参加する行事にあわせて実施する。

6. その他

表彰者名、表彰団体、表彰内容について父母教育後援会会報に掲載する。

法学部

◆法学部長最優秀賞

- 4 千葉あすか 景観保護目的による財産権制約の合憲性
——コモンズ論からの景観利益の考察を通じて——

◆法学部長優秀賞

- 3 東原 菜摘 代理出産によって生まれた子供の法的親子関係
～誰を母親とするべきか～
- 3 桃木 優里 共謀罪の批判的検討 - 特定秘密保護法を題材にして -
- 3 内川 侑紀 生命倫理におけるソフトローの役割と必要性
- 法システムと社会の調和に焦点をあてて -
- 3 仙場 雄貴 刑法 230 条の 2 の法的性質 - 現実性の錯誤を中心に -
- 3 小田 愛実 情報公開訴訟におけるインカメラ審理
- 3 中尾 萌 取立委任手形を有する銀行が、再生手続開始決定後に同手形を取立
て自己の有する債権の弁済に充てることの可否
- 最一小判平成 23 年 12 月 15 日を素材に -
- 4 中井 大介 中期ハイデガーの政治哲学 — 「闘争」概念に関する考察—
- 4 宮崎 淳哉 労災民訴における素因斟酌
- 4 井上 大成 民法 177 条の「第三者」
——判例分析を通じて最高裁の姿勢や志向を探る——

◆法学部長教育賞

- 2 稲田 隆浩 「住民訴訟」とキャリアビジョン
- 2 水本 真史 人権啓発の論理と心理
- 地方自治体における人権啓発政策の現代的役割 -
- 3 今井 大揮 富山県の既存 JR 線の LRT 化とまちづくり
- 赤字ローカル線の未来予想図 -
- 3 藤井 宏行 生活上の不利益による配転命令拒否と使用者の権利濫用
- 3 布施 博行 先例としての事実上の拘束性
- 婚外子法定相続分規定違憲決定を契機として -
- 3 山盛 裕之 ストーカー規制のあり方
- 3 井上 界 詐欺罪の保護法益と財産的損害
- 3 大沼 剛 司法による約款内容の修正
- 最高裁昭和 62 年 2 月 20 日判決を素材として -

- 3 松本 侑政 指定管理者と自治体の損害賠償責任の分担について
- 公私協働の観点から -
- 3 松尾 美紗 脳神経科学の進展と法
——刑法学における意思自由論争への影響? ——
- 3 岩佐 香織 待機児童ゼロを目指した行政訴訟と国や自治体の対応
- 3 坂口 諒 中央新幹線中間駅誘致 - 奈良が京都か -
- 3 石原 朱夏 教育格差と学びのセーフティネットの構築
- 4 中井 大介 ドイツ語検定 2 級合格
- 4 石野 達也 自己答責原理と行為者の刑事責任
——被害者の危険引受けを中心に——
- 4 田中 沙織 反致否認論と反致効用論の相克
- 4 松本 良真 文書偽造罪における「文書の性質」論について
- 1 東 理文 1 野瀬光太郎
1 石本 妃那 1 林田 祐輔
1 伊藤 裕志 1 原口夏乃子
1 小園 奈未 1 土方 綾香
1 小林 寛和 1 藤井 友理
1 堺 功輝 1 古林 尚悟
1 佐々木穂高 1 松井 大翔 「公務行政基礎 (JC)」におけるレポート集の作成
1 榛葉 大樹 1 松田 賢人
1 関 将 1 松本 麻由
1 力 浩明 1 峰崎まどか
1 那須 貴優 1 森 大輝
1 鳴海ありさ 1 森田 悟
1 西山 佳晃

産業社会学部

◆産業社会学部長優秀賞 (卒業論文の部)

- 4 小嶋 健之 Mr.children はどのように若者に受容されてきたか
～ Mr.children・20 年のバイオグラフィー分析～
- 4 杉本 大昂 「厳しい教育環境にある家庭」の子どもの「学力」をいかにして伸ばすか
～ 「貧困の世代的 (世代間) 再生産」を食い止めるための教育方法論～
- 4 前西 実希 日本の労働市場における男女間格差
～ジェンダー規範に注目した考察～

4 山崎亜由香 マンガに描かれるセクシュアルマイノリティ

◆産業社会学部長優秀賞（公募論文の部）

3 下出 隆史 3 朝日 貴司
3 岩場 沙織 3 増田 一燦
3 河村友香理 3 江尻 良
3 神田 泰宏 3 用松 寛秋
3 伊藤 佳奈 3 西村 肇貴
3 吉田万奈美 3 大村 健人
3 石上 達也 3 水野 真幾
3 清水 海星 3 清久 公貴

ホワイト企業を増やすために ～日本の労働環境の現状と改善に向けた取り組みの分析～

3 大場日歌里 自己の内面と専門性の育ちに関する一考察
3 松田望奈美 ～精神保健福祉援助実習を通しての学び～

3 上野 優歌 3 松田 瞳
3 市原 杏奈 3 辻本 瑞貴
3 大場日歌里 3 中川 文恵
3 高橋詩旺理

地域から孤立する高齢者の現状と課題

3 正者英美香 3 中上 理恵
3 三好 由子 3 幸野 雄太
3 前田 愛佳 3 山下 竜志
3 渡辺 由佳 3 鹿野 美帆
3 嶋田 英雄 3 片岡 琢郎
3 増田 志帆 3 米原晶太朗
3 菅 伸智 3 辻野未奈実
3 荒木志津香

ともにひかり輝くとき
～ひきこもりの若者から学んだこと～

◆産業社会学部長教育賞（卒業論文の部）

4 黒田 彩 野宿者を適切な支援に繋げるには ～歴史と認識の変化の中で～

4 辻 友佳里 インドネシアに対する日本の「文化輸出」のプロセスの一考察
～AKB48 から JKT48 へ～

4 里見 容 東日本大震災における防潮堤計画についての問題点
～宮城県気仙沼市の事例をもとに～

4 浦谷 千晶 1990年代以降の an-an から見る「女らしさ」の強化と性別役割分業の再編成
～「バックラッシュ」におけるジェンダー表象～

4 諸熊 健吾 ソーシャルメディアは選挙を動かすか
～若者世代と繋がるネット選挙～

4 吉川 真央 アルフォンス・ミュシャ ポスター芸術としての女性表象

4 横山 幸平 日本人の同調行動から考える優先席の在り方

4 永田健次郎 スポーツ報道における「物語化」の検証
～箱根駅伝を事例として～

4 豊岡 聖也 学生フリーペーパーにみる若者の文化的実践と権力作用

4 野畑 航基 東アジア共同体構築に向けた現実的アプローチに関する理論的考察

4 近藤 雅大 2015年に向けた ASEAN の統合の行方と ASEAN が切り拓く東アジア地域統合の可能性

◆産業社会学部長教育賞（公募論文の部）

1 神田 匠 アメリカ市民とファストフード

2 泉尾 光毅 祝島の生業における人間関係と株内との関係

2 羽根 峻也 祝島の島民と行者堂との関係からみる行者堂の持つ意味

3 田中明日香 生活保護制度とホームレス支援
～後退した最後のセーフティネット～

4 高橋 咲穂 量が児童に与える影響について
～学校図書館の利用に注目して～

3 三宅 希実 3 城崎 麻美
3 井上 緩菜

ソーシャルサポートを高く受けている人ほど見知らぬ他人に援助行動を行うのか

3 佐藤 愛 3 中西 祐葵
3 黒川 凌太 3 福原 梨沙
3 御倉 亮太 3 藤本 詩織
3 乾 淳史 3 峯 望実

「買い物難民」の実態と支援活動の研究
～買い物から排除される高齢者たち～

3 桑山 卓 3 松浦 加奈
3 竹田 葵 3 小田 千裕
3 植田 真弘

「アニメ聖地巡礼」の現在
～石川県湯涌温泉の現地調査を通じて～

3 遠藤 聖子 3 戎 祐子
3 上原 健太 3 森川 美希

立命館大学男子体育会におけるチームの雰囲気特性とバーンアウトの関係について

3 佐野 翔 3 河合利恵子
3 安部なつみ 3 高橋 華子
3 天野 恵 3 玉置 渚
3 磯川 咲里 3 富永 紘樹
3 岡野 夏実 3 村瀬 成実
3 角田知帆理

日本の小学校教育におけるメディア・リテラシーの
実践と研究

3 相原 開
3 清水良季子

ビデオゲームを媒体としたプレイヤー間コミュニケーションの歴史

3 村上 美帆 3 長岩 美沙
3 大川 真希 3 福川 智美
3 西村 未来

「働く女性」の表象
～現代のテレビドラマにみるジェンダー～

3 坂東 義崇 3 堀内 大希
3 新堂 謙介

企業と学生が思うコミュニケーション能力のギャップ

3 真鍋 里菜 3 中村 里香
3 野田 裕未 3 井上 立夏
3 植松 俊 3 外村 明久
3 坂井 栄太 3 武熊 祐輔

社会問題の啓発ポスターにおけるビジュアルの重要性に関する研究
～喫煙問題を一例にして～

3 澤田 空香 3 植村 昂太
3 青木 泰花

外国人からみた日本人学生のネットリテラシー
～Ustreamを使用した番組配信の実践～

3 下地 咲紀 3 櫻井 慎也
3 石原 顕子 3 増田 智美

自尊感情の発達と支援の在り方とは
～小・中・高・大学生の比較研究から～

3 安田光紗季 3 大塚 春菜
3 小野 瑞季

「自分らしい死」を巡る錯綜
～安楽死・尊厳死問題における自己決定の含意を読み解く～

◆産業社会学部長教育賞（活動の部）

4 香山 侑美 おばあちゃんので

国際関係学部

◆国際関係学部長優秀賞（卒業論文の部）

4 丸山絵里子 南アフリカ共和国におけるポスト・マンデラ期の民主主義の展望
- 「民主主義はアフリカ経済を殺す」か? -

4 吉持 聡 テロ行為に対する自衛権行使の合法性
- 自衛権に関する国際法の解釈変更の可能性についての検討 -

◆国際関係学部教育賞（卒業論文の部）

4 阿久津亮太 脱文脈化する文字
- 近代社会における文字のあり方 -

4 門川 裕美 気候変動における資金問題と緑の気候基金の展望
-COP19 ワルシャワ会議を終えて -

4 貞廣 彩 デンマークの労働市場政策
- その特徴と2008年の世界金融・経済危機後の変化 -

4 佐藤 友香 「統一企業」の経営戦略と日本食品企業の中国事業の今後

4 中村 鞠江 日本人女性の洋装化はなぜ男性よりも遅れたか
- 欧米における衣服近代化との比較の視点から -

4 樋上 彩香 不安定雇用からみる派遣労働の問題性：
オランダの派遣労働政策との比較を通じて

◆国際関係学部教育賞（自由研究の部）

2 SNELLING THE DIRE NEED FOR DOMESTIC AND INTERNATIONAL
Matthew Paul RECONCILIATION IN AFGHANISTAN

◆国際関係学部教育賞（基礎演習ゼミナル大会の部）

1 生田菜緒子 1 中川 香基
1 上野 文敬 1 中野竜太郎
1 武田 晃一 1 西村 祐紀

基礎演習 ゼミナル大会 優勝 B クラス
「ブラック企業」

1 市川 遥香 1 木村 耕輔
1 岩間 遼 1 崎本 彰子
1 梅村 恵麻 1 松山 洸行

基礎演習 ゼミナル大会 準優勝 C クラス
「日本におけるソーシャルビジネスの拡大に向けて」

◆国際関係学部教育賞（自主的活動の部）

1 ZHANG Shiwen 3 川島 綾香
2 市川 美結 3 森 悠貴

第14回オープンゼミナルの運営

2 竹谷 洋平 4 木村 凌
2 伊達 萌 4 富田絵莉子
2 羽根 飛鳥 4 藤森まいこ
2 辻ハジキス博 4 堀端 祐志

第14回オープンゼミナル 優勝
「飼料としての昆虫の可能性」
(河村ゼミ・律子の食卓)

3 加藤 優里 3 森下 裕子
3 樋山 葵

第14回オープンゼミナル 準優勝
「省エネはやっぱり割りにあう！」
(大島ゼミ・省エネコートレット)

3 井上 有稀 3 文 祐三
3 王 佑璃奈 4 中山 由佳

第14回オープンゼミナル 準優勝
「省エネはやっぱり割りにあう！」
(大島ゼミ・省エネコートレット)

政策科学部

◆政策科学部長優秀賞（一般募集）

3 榎 彩那	3 林 沙也加	
3 澤田 嶺	4 山田 大貴	京都市における袋路の実態と経年変化
3 竹脇 英里		
3 松尾 夏紀		国からの地方公務員給与削減要請に対する地方の対応の検証
2 川上萌仁香	2 姫野 紗希	
2 植田真沙子	2 松岡 千春	龍安寺参道商店街プロジェクト
2 大久保佑亮	2 美谷脇舞子	～龍安寺参道商店街の活性化に向けて～
2 兼子 榛奈	2 吉川 明里	
2 兼田 郁花		

◆政策科学部教育賞（一般募集）

1 三浦なつき	カンボジアにおける社会関係資本に基づく教育推進システムの実現可能性	
1 KOH Jia Min	Internationalization of Japanese Corporations	
3 藤井 望美	3 尾仲 美紀	植物工場普及における我が国の政策の在り方と方向性
3 緒方 陽	3 川南 雅裕	～国際競争力の確保に向けて～
3 邵 天澤	日中関係の改善に向けての青少年交流事業の強化について	
	～独仏青少年事務所の事例から～	
2 久米由香子	2 刘 嘉碩	TMOによる中心市街地活性化法
2 川村 優太	2 桶 里帆	～飯田市を事例に～
2 中野 雄哉		
4 岡見 有純	適切な栄養摂取による健康で活動的な長寿を送るための政策	
4 千田 彩加	幸福度評価が行動と選択に与える影響	
4 田中 理華	～立命館大学生における意識調査～	
1 杉本安友子	立命館大学紹介ムービー「Beyond Borders」英語字幕作成	

◆政策科学部教育賞（外国語作文コンテスト）

1 中山 彩佳	外国語作文コンテスト「英語部門」優秀賞
3 邵 天澤	外国語作文コンテスト「ドイツ語部門」優秀賞
2 木村麻里早	外国語作文コンテスト「フランス語部門」優秀賞
2 工藤 穂波	外国語作文コンテスト「中国語部門」優秀賞

文学部

◆文学部長教育賞（卒業論文優秀表彰）

4 仲林 翼	カミュ論 —不条理と反抗の哲学—
4 福井みくる	学校現場における「わかちあい」という心の在り方
	～よりどころを必要とする生徒への援助を中心に～
4 野原 裕人	『夜の寝覚』の造形 —中の君について—
4 田中 小春	太宰治『浦島さん』論
4 安土 知杏	森絵都『カラフル』論
4 千代延暁子	『公孫龍子』名実論篇の思想的特徴
4 柏岡 巴	Figures Affected on Edna's Dual Personality and Death in <i>The Awakening</i> by Kate Chopin
4 藤居 賢	<i>The World According to Garp</i> におけるメタフィクション性について
4 岡田 祥佳	二重目的語構文について
4 増山 遼	清水登之と戦争
4 武藤 誠治	南北朝動乱期における南河内地域諸寺院の動向
4 車谷 航	明応の政変前後における越前朝倉氏の政治的向背
	～細川政元との関係から～
4 恵比根祐子	『日書』における世界観
4 山里 真矢	ヴィクトリア朝におけるミステリー小説の誕生
4 林 凌	空間行動様式における情報の役割 —福岡都市圏を中心とした若者の情報メディア利用と行動の関係性—

4 松尾 眞吾	弘化三年における京都・鴨川の水害の復原
	～洛南・東九条付近を中心に～
4 竹下 哲文	古代ギリシアにおける「共通語」の成立とその社会的背景
4 小林 裕翔	Wandering a Wonder Museum
	ヴァレリーの「聖なる悪寒」を求めて
4 西村 朋子	統社会アメリカ —進まぬ統規制をめぐる争い—
4 岡崎 享子	在日コリアン文学からみる言語とアイデンティティ
	～金時鐘のライフヒストリーと作品を通して～
4 新井 智大	フォーカス・リーディングスパンテスト及び非フォーカス・リーディングスパンテストにおける加齢効果の検討
4 常石 明里	社会的カテゴリ化に対する既知性・有名性の影響
4 菊地 祥子	合成顔の女性化強調が魅力評価に及ぼす影響
	～被験者と顔刺激が同性の場合に着目して～
4 佃 美咲	自閉症スペクトラム児（疑い）における社会的相互作用行為の変化
	～簡単な音読・計算課題の取り組みを通して～
4 野口 亨子	グラデーションによる誘導効果の検証
4 藏藤 寛	三島由紀夫『金閣寺』論 —心象の金閣の美の本質—
4 田村 恵	国語科教材の説明的文章における対話の存在
4 田中 稜	Examining the Effects of "Japaneseness" as a Historically Constructed Curriculum: Finding the Roots of Structural Inequality and Identity Crisis
4 沖 有砂	本土に見る沖縄文化
	～尼崎市戸ノ内町と大阪府大正区の比較から～
5 前田 一馬	タウン情報誌から読み解く避暑地「軽井沢」の場所イメージ
	～高原誌『軽井沢ヴィネット』の分析をもとに～
5 野田七生子	20世紀におけるロシアプロバガンダポスターの独自性とその由来
5 内田 詩織	幕末維新期における松尾社祭礼の変容
8 田中 徳将	不登校から見る居場所概念の再検討
	～精神分析理論を手掛かりとした内的世界を中心として～

◆文学部長教育賞（特定分野で力量形成、自己研鑽し成果を出している学生表彰）

1 中道 彩	立命館孔子学院主催「第8回中国語スピーチコンテスト」優秀賞
2 門脇 夏美	インターンシップ
	人文科学／人文学特別研修「国際航業株式会社」
3 平松 美有	研究活動
	「立命館大学日本文学会主催第140回研究例会」で「花山天皇の出家」
	類話比較—伝承における「古事談」の役割—を発表
3 岡本 尚子	研究活動
	東北亜観光研究会第3回大学生国際発表大会
	「ブランド構築のための考察」奨励賞
3 松川 優花	研究活動
	関空旅博2013第4回関空発「学生と旅行会社でつくる」海外旅行企画
	「猫好きの猫好きによる猫好きのための旅 in 台湾」優秀賞
3 井内美穂子	研究活動
	文学部ゼミナール大会 学生審査賞
	呪詛と預言と「絶望」と ～「リチャード三世」その悲劇と背景～
3 坂野 慶太	研究活動
	文学部ゼミナール大会 審査員特別賞受賞
	「ひらがな駅の分布パターン —難読地名の変化を読みとく—」
3 柴田 茉侖	インターンシップ
	人文科学／人文学特別研修「東九条まちづくりサポートセンター」
4 大出 彩	研究活動
	「人文科学とコンピュータシンポジウム」で研究発表「流行歌から見る
	歌詞の年代別変化」
4 鈴木 悠太	研究活動
	東北亜観光研究会第3回大学生国際発表大会
	「栃木県塩原温泉郷における混浴風習の存続」奨励賞
4 近藤美菜子	副専攻スペイン語履修とグラナダ大学交換留学を経て「スペイン語技能検定試験3級」合格
4 久保田理沙	「平成25年度グローバルリーダー育成事業」日本代表参加青年に採用決定「環境コース」フィジー共和国へ派遣
5 徳永 大輔	第十回京都学生人間力大賞 「芸術文化スポーツ部門賞」受賞
	Webサービス「ヤマビコ」の企画・開発で数多くの受賞実績
1 江原 智仁	2 中村 優介
1 知念香菜子	2 前田 歩
	研究活動
2 浅尾 野武	2 森 達郎
	地理学研究会「大分県別府市の地域調査」
2 新井 望美	3 藪 寛太郎

1 幡司 朋之	2 田中 将太
1 海野 大地	3 安藤 佳奈
1 高野 しの	3 伊故海貴則
1 富樫夕有子	3 桑原 寿門
1 湯浅 梨花	3 高藤未由希
2 安藤 智美	3 鈴木 寛人
2 上山 陽子	3 益永 春陽
2 勝野 文菜	3 山内 侑子
2 鈴木 大輔	4 大神 眞
2 西澤 忠志	4 末永 空夢
2 濱名 翔平	4 竹林 悠
2 藤新 朋大	4 山西 歩

研究活動
京都歴史災害資料研究会
「明治後期歴史災害データベース」刊行

2 内田 藍海	3 佐伯 まや
2 岡村 恵	3 中村 佳正
2 吉崎 真由	3 岩城穂乃花
2 赤野 洋史	4 水越 秋恵
2 藤岡 佑梨	4 吉田 爽耶

人文科学／人文学特別研修
「子ども・青年の居場所づくりインターンシップ」

2 砂田 和輝	3 平松 美有
2 堀井 真希	4 片山 沙織
3 宇垣 琢朗	4 児島 啓祐
3 大坪 理	4 永山 萌恵
3 神吉 絢子	4 野原 裕人

研究活動
日本文学会学生会部会「説話文学研究会」

2 小林由加子	3 西俣 葉月
2 西村 美紗	3 村上 千春
2 東谷 真帆	3 山西 希美
3 東影 鈴子	3 木村 梓美
3 小林 稚菜	4 新井 智大
3 立花 咲葵	4 有山 友梨
3 中道 彩乃	4 村上 歩未

人文科学特別研修「高齢者への心理的サポートプログラムインターンシップ」

3 浮森 直紀	3 坂野 慶太
3 真田 遥平	3 松尾 卓磨

文学部ゼミナール大会 文学部校友会会長賞受賞
ジオパーク研究会「ジオパークを用いた地域振興の現状と課題」

3 鈴木裕加里	京都学応用研究Ⅱ
3 清野 彩	「西之京瑞麟神輿（ずいきみこし）保存会のインターンシップ」

4 濱田 実香	4 河野 賢人
4 大石 剛	

八幡市立中央小学校6年生への英語活動指導ボランティア

4 窪田 椎奈	卒業制作「古典作品をテーマとしたラジオドラマ制作」
4 松永 安奈	

◆文学部長教育賞（学部の教育活動に自主的スタッフとして積極的に貢献している学生表彰）

3 宇垣 琢朗	日本文学会学生会部会「日本文学研修実行委員会」 「姫路城・書写山など」の企画・運営
---------	--

4 大石 剛	国際プログラム・言語コミュニケーションプログラム合同演習クラス・ゼミ長 自主ゼミ「オーディー高校」リーダー
--------	--

映像学部

◆映像学部長優秀賞

2 近藤千花子	2 服部 航也
2 久野 拓也	2 安芸 徳洋
2 松本かれん	2 松村 旬時
2 山脇 航	2 新保 松風

「映像制作実習Ⅲ」：「映像制作実習Ⅲ」での最優秀作品賞受賞作品「とある隣人」。

3 大本 大祐	3 西川 裕介
3 前田康太郎	

「企業連携プログラム」：MOVIX 企画「ほっとママシネマ」の広報CM映像制作。

3 荒瀬 佳孝	3 伊藤 修
3 田中 明綾	3 雲下紗也子
3 田中 征隆	3 山内 愛実
3 溝井 遼	3 井上 裕子
3 石坂 香苗	3 柴田 夏実
3 仲本 椋	3 柳樂 亮
3 西野 晃弘	

「企業連携プログラム」：「京都国際マンガアニメフェア2013」PRプロジェクトへの企画の立案および実施。

◆映像学部長教育賞

3 二宮 一世	3 白石 賢史
3 伊藤 奏士	

アニメ制作団体「Alnico」：2Dフルアニメーション「Reflection」。

経済学部

◆経済学部長優秀賞（論文部門）

3 上山 咲	企業の社会的責任活動に対する消費者評価 —環境保全活動と社会貢献活動に注目して—
--------	---

3 榎本 昇一	3 武政 祐希
3 國本 晃平	3 成松 和希
3 石川 辰也	ポスティングシステムの分析

◆経済学部長教育賞（論文部門）

2 藤田 太裕	固定価格買取制度 ～現状と批判と提言～
---------	---------------------

3 萩原 雅士	郊外化がもたらした中心市街地問題の解決 —現地調査によるコミュニティビジネスの分析を通して—
---------	---

3 水野 翔介	ビール業界の販売戦略 ～なぜアサヒビールはビールに特化するのか～
---------	-------------------------------------

3 吉山 祐矢	イスラーム銀行資産増加は市場の資金需要を増大させるか：マレーシアのデータに基づく時系列分析
---------	---

3 重岡 哲敏	Potential GDP Growth Rate ～ Estimation of GDP Gap with A Production Function Approach ～
---------	---

3 森田 美貴	「豊かな」国における貧困
---------	--------------

4 浅井佐紀子	消費税の「損税」問題 —医療機関を中心に—
---------	-----------------------

4 竹中ららら	Mu β e とは何か
---------	-------------

4 藤田 晃司	Why Japanese Online Securities Companies Set Different Transaction Fee?
---------	---

4 瀬良健太郎	中東欧諸国のEU圏での経済格差収束の展望
---------	----------------------

2 齋部 聡季	2 上杉 慎司
	税制改革から日本の財政をどう見るか

2 林 晃生	2 本田 遼一
2 谷脇 真行	

地場産業活性化イベントに対する訪問者選好
—地酒イベントの集客力を高めるには—

3 榎 一州	3 山口 智也
3 小池 紀恵	3 湯原 憲
3 森下光之助	3 渡邊 隆徳

ポイントカードの分析
～ガソリンスタンドを例にとりて～

3 川瀬 美歩	3 正田 裕貴
3 池元 貴則	3 渡辺亜優美
3 王 淳正	

インターネット販売を考慮した立地競争の分析

3 藤田 響	3 中尾 瑠衣
3 辻本 祐貴	3 平野 敬

競馬におけるリスク・リターン分析

3 山本 千尋	3 高野めぐみ
3 大高 聖奈	

その仕事は本当に天職なのか
—景気と転職行動の実証分析—

◆経済学部長教育賞（外国語検定試験部門）

3 牛尾 教寿	TOEIC 865 点
---------	-------------

3 米山 佑	HSK6 級 225 点
--------	--------------

経営学部

◆経営学部長優秀賞（論文部門）

4 堀井 省吾	社会的企業は日本の社会システムを変革するか？ -シナリオ・プランニングを通して日本の社会システムの可能性を探る-
---------	--

2 長船 翔太	2 藤林 加奈
2 塩川 沙季	3 太田 朱音
2 梶田 佳司	4 山田 諒
2 難波 里菜	

非営利組織における従業員満足と組織コミットメントの実証分析

◆経営学部長教育賞（論文部門）

1 須田 光紀	1 甄 琳娜
1 伊藤 星	1 室原 祥吾

旅行会社の取り組むべき危機管理
-3つのRの視点による比較研究-

1 塩月 友也	1 小石川 統
1 有竹美菜子	1 横山玖未子

日系企業における人材の現地化に関する一考察

1 菅原 祥王	1 萩原 雅人
1 清水俊太郎	1 野田穂乃佳
1 濱崎 菜実	1 窪田 尚幸

東京ディズニーリゾートにおけるCS向上戦略の分析
-USJとの比較を通じて-

1 金海 宏南	1 島淵 登暉
1 海老名達哉	1 坂東 大輝
1 久保有樹男	1 山崎由璃子

ブラック企業の定義と業績向上の理由

1 築島奈津季	1 藤井 祐輔
1 小寺 聖太	1 山崎 彰人
1 佐々木千壽	

ネットゲーム企業の収益変化
-GREEとガンホーの比較を通じて-

1 大槻 一至	1 手島 聡志
1 藤澤 将貴	1 辰己晃太郎
1 宮武洸太郎	1 GOU Ruowang

マルハによるパチンコ業界寡占化の背景
-パチンコ台構成の分析から-

1 西岡 京	1 山木 岳
1 川淵 真央	1 吉牟田智也
1 久保 由里	

日本の美術館が、海外同様あるいはそれ以上の来場客数を獲得するために必要な経営戦略について

- 1 南部 俊和 1 LI Fangda
1 鷹家 雄大 1 加藤 佑亮 ブランドと消費行動の関係性
- 1 寺下 穂 1 高畑あゆみ 商業施設の併設が公共のスポーツファシリティの経営改善策である事の重要性の再認識及び具体的な理論化への提案
1 宮本 真生 1 森 江利佳
1 辻 早絢
- 2 紅林 亮多 2 鈴木 亮太 日本経済の成長戦略における CSV の重要性
2 山内友里菜 2 紀田 睦美 - 中小企業に対する地域金融機関の海外支援の事象を通して -
2 三好 裕子
- 2 土器箇真也 2 松田 沙貴
2 新庄 里菜 2 横山 輝 調味料業界のこれから
2 中村 裕実 2 PARKSEHYUK - 味の素の財務諸表分析をして -
- 2 大田 香穂 2 奥井 里沙
2 飯田 瑞生 2 柴田 尚宏 ISM が非計画購買に与える影響
2 井嶋 菜々 2 高橋 拓郎
- 3 津留 浩彰 遺伝的プログラミングを用いたスケジューリング問題支援システムの作成
- 3 鍋島 直宏 市民主体のビジネスモデルに未来はあるか? - シナリオプランニングを用いた脱工業化社会への変革の可能性の考察 -
- 3 櫻井 淳貴 日本における地域銀行の長期的な展望についての考察
- 3 梯 優子 中国市場における日産自動車のノンマーケット戦略
- 3 西 俊介 日本の軽自動車市場における消費者の意思決定プロセスの調査
- 3 別府 貴之 3 市田 敦也 繊維革命 - 業界を支える二つの素材 -
3 大久保泉美 3 山田 裕大
3 水長 楓 3 川端裕二郎 日系企業の現地化に関する考察
3 太田 博崇
- 4 村田 麻由 ブランド・ポジショニングの効果性における差別化変数に関する実証分析
- 4 村山瑛里奈 ハローキティのブランド戦略
- 4 高橋 紀晶 ダイバーシティ経営が企業業績に与える影響
- 4 石田 瑞葉 保育園における若手従業員に対する動機づけと上役のリーダーシップ
- 4 小林 巳尋 「メタファー」のマーケティングにおける理論的・実践的意義
- 4 森園 佳奈 パナソニックの財務諸表分析 - 構造改革費用に焦点をあてて -
- 4 多那瀬友貴 イノベーション戦略とビジネスモデル - Changing the Strategy -
- 4 古田 七海 ブランドロイヤリティの構築におけるブランド・ポジショニングの効果性に関する実証分析

◆経営学部教育賞 (外国語部門)

- 2 笠井 彩菜 <ドイツ語> 独検 2 級
- 2 片山 耕一 <スペイン語> スペイン語検定 3 級
- 3 真鍋 結衣 <フランス語> フランス語検定 準 2 級
- 3 真壁 実世 <フランス語> フランス語検定 準 2 級
- 3 小橋 智大 <中国語> 新 HSK 6 級 236 点
- 4 杜 佳寧 <英語> TOEFL iBT 102 点
- 4 甲斐 翔馬 <英語> TOEIC 910 点
- 4 辻 清隆 <英語> TOEIC 915 点

理工学部

◆理工学部長最優秀賞

- 4 川端健太郎 4 北浦 誠人 チーム iREX として設計・作成した油圧シリンダを用いた 2 体のロボットを「国際ロボット展」に出品・デモ運営し、参加の大学・企業等多数の方々の注目を集め好評を博した。
4 和田 章寛 4 兼松 宏多
4 井澤 健祐 4 野村 敏行

◆理工学部長優秀賞

- 3 尾里 叶生 成果の学業の学修目標への到達度を確保するための検証試験において、最も優れた成績を修めたことをここに称えるものである。
- 4 前田 亮 第 57 回日本学術会議材料工学連合講演会および粉体粉末冶金協会秋季大会にて優秀な発表を行った。
- 4 須藤 大和 日本鉄鋼協会第 166 回秋季講演大会にて優秀な発表を行った。

- 4 西本 貴哉 化学工学会第 16 回学生発表会堺大会にて優秀な発表を行った。
- 4 安倍 悠真 日本材料学会関西支部ポスター支部長賞を受賞し優れた成果を修めた。
- 2 木澤 岳人 2 國貞 佳那 環境管理調査実習 1 において、近江八幡市官庁街再開発と題した提案・プレゼンテーションを行い最優秀賞を受賞した。
2 斎藤麻里奈 2 中島 晴香
2 大塩 悠介 2 梅下 皓平
- 3 吉岡 希裕 3 岩野 真伸 物理学特別実験 II (今田グループ) に意欲的に取り組んだ。金属スズが低温に長期に置かれると破壊される現象 (スズペスト) を調べ、その物性を測定した。実験期間内にはスズの同素変態は見られなかったが、その原因を詳しく考察し、レポートにまとめた。
3 所 優 3 豊田 佳代
3 芳澤 遥奈 3 吉坂健志郎
3 谷口 翔一 3 永野 凱大
3 船本 和矢
- 4 国島 岳大 4 山口 純平 公共政策への提言を含めてデザイン提案を行うという、学会が主催する設計競技に参加し、優れた作品として社会的に評価されたことをここに称えるものである。
4 稲村雄一郎
- 4 近藤 克紀 4 田中 靖大 環境システム工学科卒業論文発表会において、特に優れた研究発表として、最優秀発表賞を受賞した。
4 浅田 峻介 4 堀 まつ梨

◆理工学部長教育賞

- 2 岡林 晃司 電気電子工学実験 II において優れた成績を修めた。
- 2 白井 淳平 電気電子工学実験 II において優れた成績を修めた。
- 2 松岡 裕起 電気電子工学実験 II において優れた成績を修めた。
- 2 馬部由美絵 建築デザイン演習 I・II において優れた成績をあげた。
- 3 藤村 大悟 実験科目 (電子光情報工学実験 III) 優秀者として表彰する。実験レポートの作成にあたり、文章の工夫、検討・考察のための文献調査に積極的に取り組み、優秀な成績を修めた。
- 3 奥 恵里奈 実験科目 (電子光情報工学実験 III) 優秀者として表彰する。実験レポートの作成にあたり、文章の工夫、検討・考察のための文献調査に積極的に取り組み、優秀な成績を修めた。
- 3 田中 啓大 電気電子工学実験 III において優れた成績を修めた。
- 3 角 祐里 電気電子工学実験 III において優れた成績を修めた。
- 3 野村 俊介 電気電子工学実験 III において優れた成績を修めた。
- 3 小西 佐枝 到達度検証試験において優れた成績をあげた。
- 3 廣田 竜介 演習や国内外のコンテスト等で優れた成績をあげた。
- 3 小杉 和裕 到達度検証試験において優れた成績をあげた。
- 4 森本 純毅 2 月 17・18 日に行われた物理科学科の卒業研究プレゼンテーションにおいて、「二重振り子における運動の解析」というタイトルで発表し、プレゼンテーション、独創性・創意創発性、内容の理解度において優秀であるとして物理科学科教員の協議により選出された。
- 4 山口 裕生 2 月 17・18 日に行われた物理科学科の卒業研究プレゼンテーションにおいて、「巨視的面構造を持つかんらん岩を透過する弾性波について」というタイトルで発表し、プレゼンテーション、独創性・創意創発性、内容の理解度において優秀であるとして物理科学科教員の協議により選出された。
- 4 三代浩世希 2 月 17・18 日に行われた物理科学科の卒業研究プレゼンテーションにおいて、「明野大気チェレンコフ望遠鏡の動作試験とレイトレスシミュレータの製作」というタイトルで発表し、プレゼンテーション、独創性・創意創発性、内容の理解度において優秀であるとして物理科学科教員の協議により選出された。
- 4 山手創一郎 学生ビジネスコンテストで優れた成果をあげた。
- 4 蔭山 享佑 可視光ビーコンを利用した盗撮防止システムというテーマで優れた研究を行った。
- 4 河原林直記 リチウムイオン蓄電池の高精度残量推定システムの実装というテーマで優れた研究を行った。
- 4 古越 隆浩 パッチアレイアンテナを用いた 400MHZ 帯無線給電システム構成法というテーマで優れた研究を行った。
- 1 手島 和 1 内藤 有希 建築環境工学概論で優れた成績をあげた。
1 坪田 叡伴
- 2 栗山 拓 2 武藤 健介
4 浜野 恭行 1 川口 敦史
4 江藤 修 1 神尊 貴頭 自主ゼミを通じて、講義の内容とは別の数学を積極的に学んだ。成果を機関紙「方程」にまとめた。
4 大島 宏貴 1 坂本 直樹
3 中垣 成史 1 猿丸 貴志
3 濱部 周平 1 仙葉 雄基

- 3 大野 広翔 1 高野 敬也
- 3 沼上 健人 1 徳永 穰
- 2 石井晃太郎 1 中村 優太
- 2 井尻 昌幸 1 中山 大輝
- 2 小林 周史 1 西居 弘基
- 2 齋藤 勇太 1 西川 知里
- 2 藤原 光基 1 吉清 嵩人
- 2 水方 啓喜

物理科学科の推進する課外活動「実験工房」の一環として、モデルロケットの製作と打ち上げを数回行った。エンジン以外のすべてを自ら設計して製作し、欠点を改良しながら成功させた。

- 2 南浦 悠馬 4 三代浩世希
- 2 宮本 亮

- 4 内山由紀子 2 木本 珠恵
- 2 岩永 麻由 2 藤本 麻由
- 2 金子 稀貴 2 吉岡美加子

自主ゼミを通じて「確率過程入門」という専門書を読み、セミナーノートにまとめた。

情報理工学部

◆情報理工学部長優秀賞

- 3 吉村 拓 「みらい塾」の到達度認定制度においてゴールド
- 4 飯田 祐希 「卒業研究」、国際会議での発表（自動運転プロジェクトでの活動成果）
- 4 NGUYEN Xuan Cuong ドイツで開催された国際会議 ACM CCS2013 でポスター発表と国際論文誌 CSSE に論文投稿
- 4 佐野 啓 「卒業研究」（歩行遊脚期の慣性運動評価と大腿義足運動生成への応用）
- 1 櫻井 広大 1 下江 輝 「情報理工基礎演習」レポート課題優秀グループ
- 1 坪内 覚輝

◆情報理工学部長教育賞

- 2 小野田将人 「情報システム学実験2」レポート課題優秀者
- 2 吉田 真也 「情報システム学実験2」レポート課題優秀者
日本 Java ユーザグループ(JJUG)主催のクロスコミュニティカンファレンス 2013Fall (通称: JJUG CCC2013Fall) における発表
- 2 村田 航大 「情報コミュニケーション学実験II」レポート課題優秀者
- 2 棚橋 直生 「メディアプロジェクト演習1」チャンピオン大会優秀賞
- 2 海段美紗希 「知能情報システム創成」レポート課題優秀者
- 2 宮崎 泰地 応用情報技術者試験 合格
- 3 山口 央理 応用情報技術者試験 基本情報技術者試験 合格
C言語プログラミング能力検定2級 合格
TOEIC IP600点
「みらい塾」の到達度認定制度においてゴールド
- 3 小西 晃広 「メディアプロジェクト演習2」最優秀賞
- 4 佐藤 貴文 情報処理学会、人文科学とコンピュータ研究会 The Pacific Neighborhood Consortium、The Electronic Cultural Atlas Initiative、京都大学地域研究統合情報センターによる共同開催の学会に参加しポスター発表において Bronze Prize (銅賞3位) を受賞
- 4 山岸 勇人 「卒業研究」（差分進化法によるイオンチャンネルモデルのパラメータ推定）
- 1 柴田 太一 1 川中麻記子 「情報理工基礎演習」レポート課題優秀グループ
- 1 内堀 和哉
- 3 菅野 晃史 「情報コミュニケーション創成3」優秀グループ
- 3 大内麻里子
- 3 松橋 彩美 「情報コミュニケーション創成3」優秀グループ
- 3 仲田 晃嗣

生命科学部

◆生命科学学部長教育賞

- 1 八軒 知美 実験科目の優秀者
- 2 大窪 貴之 実験科目の優秀者、甲種危険物取扱者資格取得者
- 2 池淵 昌幸 実験科目の優秀者
- 2 寺嶋 聖佳 実験科目の優秀者
- 4 六車 有貴 卒業研究の優秀者、甲種危険物取扱者資格取得者
- 4 小林 愛実 卒業研究の優秀者

- 1 古川 慎 1 国家 真依
- 1 富田紳之佑 1 松岡 隆裕 基礎演習科目の優秀グループ
- 1 田井 温子 1 戸田奈穂子
- 1 井本 宝花 1 片岡 桜
- 1 影山 諒 1 白井花奈子
- 1 木村理紗子 1 赤木 祐香 基礎演習科目の優秀グループ
- 1 酒井はるひ 1 尾本 碧里
- 1 大西 優斗 1 近藤 一馬

- 1 檜崎 綾子 1 中村 理歩 基礎演習科目の優秀グループ
- 1 中村 良典

- 2 奥野 真弥 2 末森彩洋子
- 2 樋口 啓道 2 森井 裕子 実験科目の優秀グループ
- 2 長尾 千明

- 3 漁野 岬 3 前畑 美椰 英語科目の優秀グループ
- 3 安藤 彰浩 3 森 欣順

- 3 安田 怜子 3 奥山 大輔 英語科目の優秀グループ
- 3 田中 貴也 3 辻川美沙紀

- 4 下村 麻瑞 4 當山 陽子
- 4 吉岡 博史 4 佐嶋 宏哉 卒業研究の優秀グループ
- 4 種田有加里 4 永野 陽祐
- 4 三好 史高 4 加藤 俊

- 4 大島 遥香 卒業研究の優秀グループ
- 4 前田 木実

薬学部

◆薬学部長教育賞

- 3 梅崎 優志 「生薬学・天然物化学実習」優秀成績
- 4 福井 彩香 「医療薬学実習」「実務前実習」での優秀成績、APPS（アジア太平洋薬学会会議）での取り組み
- 5 荒牧 祐大 放射線取扱主任者試験合格
- 5 大幡 将基 卒業研究「ニトロ基を有するクロロフィル誘導体の合成とその物性」
- 5 佐々木千尋 放射線取扱主任者試験合格
- 6 磯田 恭彰 卒業研究「エポキシド・クロロフィル連結体の合成とその反応」
- 1 武田 潤 1 田中 秀直 薬学基礎演習の優秀グループ
- 1 田中 玲美

スポーツ健康科学部

◆スポーツ健康科学学部長教育賞（論文部門）

- 3 阪本しおり 「母乳成分が脂肪分解に及ぼす影響の解析」
- 4 小倉 哲子 「女子ラクロス競技における状況判断能力と競技レベルとの関連について」
- 4 勝馬田彩香 「他者に対する苦手意識に対処する方略の検討」
- 4 藤江 隼平 「中高齢者の有酸素性トレーニングにおける動脈硬化改善効果と血中 apelin 濃度の関連」
- 4 横川 拓海 「運動誘発性因子が細胞内シグナル応答に及ぼす影響の解析」
- 1 多田 朱里 1 橋詰 真実 「Relationship between body water and suffering from summer heat」
- 1 中島 舞子
- 1 川知 誠弥 1 三原 雄弥 「Which is the best condition to stretch efficiently?」
- 1 小寺 亜勇 1 山川香菜子
- 1 越智 慶太 1 作田 大翔 「Jリーグからみるプロスポーツ観客動員数」
- 1 小林 靖 1 平井 志奈
- 1 稲森 健太 1 林田 典子
- 1 中西 大希 1 若林 凜世 「メトロノームによる聴覚刺激と走速度の関係」
- 1 西村 直人
- 3 田中 貴大 「様式の異なるストレッチングがジャンプ能力へ及ぼす影響」
- 3 御前 純

2014年度

父母教育後援会総会・ 春の委員懇談会開催の報告

5月17日（土）、2014年度父母教育後援会総会と春の委員懇談会が開催されました。今年度はびわこ・くさつキャンパスが開設20周年を迎えることに伴い、当キャンパスで実施。全国47都道府県の父母委員90名が集まりました。総会では2013年度の事業・決算を報告、2014年度の事業計画・予算案が提案され、すべて承認されました。

委員懇談会

父母の意見を2014年度の活動指針へ

総会に先立って開催された委員懇談会では、全国からびわこ・くさつキャンパスに集まった都道府県委員が6つのグループに分かれて意見交換をおこないました。今年度は「父母教育後援会ができる学生支援」をメインテーマとし、「100円朝定食の次の展開」、「全国の父母が直接参画できる学生支援」、「地域の父母同士のネットワーク形成」などのテーマから、父母教育後援会として取り組んでいく学生支援について約1時間意見を出し合い、グループごとにまとめました。

その後の報告会では教学部長である米山裕幹事長の進行のもと、各グループ代表の父母委員が話し合いでまとめた意見を発表。「1人でも多くの学生に利用してもらうために、もっと100円朝定食をPRをしていきたい」、「履歴書送付など現在おこなっている就職支援の拡充を」、「各都道府県内のつながりを強めるため、各地域の卒業生とも交流の場があれば」など、積極的な意見が数多く出されました。なかには、「全国型大学の強みを生かし、学食で郷土料理メニューを提供して第2の100円朝定食に」などユニークな提案も聞かれ、父母委員同士で率直な意見交換がおこなわれた様子がうかがえました。

最後に米山幹事長から「常任委員と事務局では本日いただいた意見を受け止め、実現に向けて検討していきたい」と述べられ、改めて全国から多くの父母委員が参加されたことに感謝の意を表しました。



総会

2014年度の事業計画・予算案を満場一致で承認

総会では始めに、父母教育後援会名誉会長の川口清史立命館総長・立命館大学長が大学を代表して父母教育後援会の日頃の支援へのお礼を述べ、なかでも「100円朝定食」が学生の生活に大きな影響を与えたことにふれられました。また来年度開設予定の大阪いばらきキャンパス、新たに建設中の衣笠キャンパスの図書館、今年オープンしたBKCの新施設について紹介し、今後も大学がキャンパス創造を進めていく旨を報告されました。

大学選出役員の紹介のあと、2014年度の父母委員・役員98名が拍手をもって承認され、三好正晃会長が就任のあいさつとして、「皆さんの意見が何よりの行動指針であり、また学生の充実したキャンパスライフにつながるものです」と述べられました。続いて竹内福代副会長が「学生の学びと成長とともに支援していきましょう」と呼びかけられたあと、2013年度の事業・決算の報告、2014年度の事業計画・予算案を提案し、すべての議題が満場一致の承認を得て、総会は終了しました。



学園祭のご案内

～秋のオープンカレッジ～

毎年学生のアイデアとエネルギーに溢れる学園祭。今年も衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスで計4日間開催します。昨年父母に大好評だった「招待企画」を今年も実施し、招待券と引換えてチケットをお渡しします。紅葉に染まる秋のキャンパスで、学生の日頃の学びや課外活動をのぞいてみませんか。

開催会場 びわこ・くさつキャンパス：**11月1日(土)・2日(日)**

衣笠キャンパス：**11月8日(土)・9日(日)**

開催時間 12時頃から17時30分頃まで(各お店、催しの準備ができ次第スタートします)

学生たちの学園生活をご体感いただけます。
ぜひご参加ください。

詳細は同封の「学園祭のご案内」をご覧ください。



追加情報などは父母教育後援会ホームページにて順次お知らせしていきます。▶ <http://www.ritsumei-fubo.com/>

2014 年 9 月 23 日 (火・秋分の日)

【対象者】 全学部の 2014 年 9 月 卒業者

※卒業合否発表は、9 月 8 日 (月) になります。

式典は朱雀キャンパスにて行います。

衣笠・BKC 所属の方も朱雀キャンパスで出席してください。

所属キャンパスにより開式時間が異なりますのでご注意ください。

朱雀キャンパスへのアクセスは、立命館大学のホームページをご覧ください。

■ 衣笠キャンパスの学部 to 所属の方

時間 / 10 時 30 分～

場所 / 朱雀キャンパス 大講義室 (5 階ホール)

■ びわこ・くさつキャンパスの学部 to 所属の方

時間 / 13 時 30 分～

場所 / 朱雀キャンパス 大講義室 (5 階ホール)

- 開場は開式時刻の 30 分前ですので、開式 10 分前までに到着してください。開式後は入場できませんので時間厳守をお願いします。
- 式典に出席される方で手話通訳の必要な方・車椅子でお越しの方は、8 月 29 日 (金) までに所属の学部事務室へ申し出てください。

メールサービスのご案内

父母教育後援会からのお知らせや、学生の課外活動での頑張りなど、タイムリーな情報をメールでお送りしています。メールアドレスをまだご登録されていない方はぜひご登録ください。

【登録方法】

- 1) 情報を受け取りたいメールアドレスから、下記の内容を入力していただき、
タイトル：メール登録希望
本文：①会員番号
(会報等の宛名ラベル右下に記載された 11 桁の数字)
②お子さまの学部・回生・氏名
pasear@st.ritsumeai.ac.jp 宛てに送信してください。
- 2) 申請受付完了メール (自動返信ではありません) の受信を確認してください。
登録作業には数日かかりますのでご了承ください。
- 3) 迷惑メール対策をされている方は、メールを受け取れないことがあります。
受付完了メールが届かない場合は、@st.ritsumeai.ac.jp のドメイン指定受信を許可してください。
※操作方法は携帯会社により異なります。

メールアドレスの
登録をお願いします！



父母教育後援会ホームページのご案内
<http://www.ritsumeai-fubo.com/>

立命館大学のホームページからは…
「保護者の皆さまへ」▶「立命館大学父母教育後援会」をクリック

■ 会員の住所変更について

本誌は、学生が学部事務室に届け出ている保証人住所宛に送付しています。保証人住所を変更される場合は学生本人による手続きが必要です。各学部事務室 (BKC 所属の方は学びステーション) まで学生証を持参の上、手続きするようお子さまにお伝えください。

※最近、立命館や関係団体等の名前を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会は、会員の照会を学外には一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。



立命館大学父母教育後援会だより 2014 年度 夏号

2014 年 9 月発行 立命館大学父母教育後援会

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町 1 Tel.075-813-8261 Fax.075-813-8262